NISE 新ロゴマークデザイン



春になると力強く芽吹く若葉。そのイメージである瑞々しさ、若々しさ、力強さを、特別支援教育のイメージと重ね合わせました。ロゴマークの上に配した丸い形は「障害のある子どもたちや保護者」を、その下に配した左の若葉は「国立特別支援教育総合研究所」を、右の若葉は「特別支援学校・幼・小・中・高等学校等の教育機関や福祉・医療・労働等関係諸機関などの関係機関」を表しています。二つの若葉は、お互いに連携・協力しながら、子どもたちや保護者を支えています。









〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1 5-1-1 Nobi, Yokosuka, Kanagawa-prefecture, 239-8585 Japan

Phone:046-839-6810 Fax:046-839-6919 (企画調整課)

URL=http://www.nise.go.jp

平成19年5月発行 特教研D-256



目次

Contents

研究所のミッション・ビジョン	
■ミッション (使命)	— 4
■ ニックョン (改革) ■ビジョン (改革・改善の方向性) ————— ■ バリュー (価値基準) ————————————————————————————————————	— 4
■ハリュー (価値基準)	— 4
沿革 ————————————————————————————————————	— 6
役職員—————	— 9
業務部門	
■企画部 ————————————————————————————————————	 10
■教育支援研究部 ————————————————————————————————————	—10
■教育研修情報部 ————————————————————————————————————	— 10
	— IU
研究	
■プロジェクト研究 ————————————————————————————————————	— 12
■味思が切れる	— 10 — 26
課題別研究 —■ 調査研究 —■ 共同研究 —	26
■科学研究費による研究	— 28
■研究者一覧 ————————————————————————————————————	—30
研修	
■平成19年度研修事業一覧	—34
■各都道府県等における特別支援教育施策や教育研究	0.0
及び教育実践等の推進に寄与する指導者養成に資する研修 ─ ■情報通信技術を活用した研修コンテンツの提供 —————	— 36 — 36
	- 50
教育相談	00
■特別支援教育のナショナルセンターとして担う教育相談事業 - ■各都道府県等における教育相談実施機関支援事業	
■対育相談に関する研究事業	—38
情報普及	
■国立特別支援教育総合研究所セミナー ————————————————————————————————————	40
■総合的な教育情報提供体制 ————————————————————————————————————	 40
■蔵 書 — — — — — — — — — — — — — — — — — —	 42
■データベース	<u> 42 </u>
国際交流	
■国際的な情報発信センター - 諸外国の研究機関との連携・協力、交流の推進 - ・	<u> 44 </u>
■国際貢献 - 特別支援教育の発展・充実に向けた国際貢献 -	— 44
■招聘・派遣 ー 研究職員の派遣及び外国人研究者等の受入による研究交流 ー	- 44
連携	
■全国の特別支援学校との連携・協力	- 46
■筑波大学附属久里浜特別支援学校との相互協力	— 40
予算·施設	40
■予算	— 48 ⊿o
——————————————————————————————————————	- 40
所在地・連絡先	40
■所在地	— 49 — ⊿0
	73











Mission and Vision of NISE	
Mission of NISE Nicion of NISE	- 5 - 5
■Mission of NISE ————————————————————————————————————	- 5
History —	
Organization————————————————————————————————————	
Staff — Staff	- 9
Departments Department of Policy & Planning	11
■Department of Folicy & Flatining ■Department of Educational Support Research ■Department of Teacher Training and Information————————————————————————————————————	. 11
■Department of Teacher Training and Information ■ Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs —	11
■High Priority Research Projects	13
Survey and Investigation Projects	27
■Collaborative Research	27
Research High Priority Research Projects Research in Specific Areas Survey and Investigation Projects Collaborative Research Grant-in-Aid for Scientific Research Research Staff	32
In-Service Teacher Training	02
■List of Training Programme, 2007	35
■The Training to Improve Leaders for Special Needs Education Policy. —	37
Education Research and Educational Practices in each Prefecture Providing the Training Contents Using ICT	37
Counseling and Consultation for Persons with Special Needs	
Individual Counseling and Consultation for Persons with Special Needs Services that National Center for Special Needs Education is Expected to Handle	20
■Support Services for Counseling and Consultation for Persons	
with Special Needs Agencies at the Prefectural Level ———————————————————————————————————	39
	39
Information Searvices National Institute of Special Needs Education Seminars	41
■Framework for Supplying Comprehensive Information for Special Needs Education—	41
■Book Collection — ■ Databases —	43
International Evolution	
■International Information Center	45
-Promotion of cooperation, collaboration and exchange with international research institutes-	
 International Contributions International contribution for development of special needs education- 	45
■Invitation and Dispatch —	
-Research interchange by dispatch of the researchers and the invitation of the foreign researchers	
Collaboration Collaboration with Schools for Special Needs Education	17
throughout the Country	71
■Collaboration with Kurihama School for Children with Autism, — University of Tukuba	47
Budget and Facilities	
■Budget — ■Site and Building —	48
Address and Contact	-+0
Address	49
■Transportation —	49











研究所のミッション・ビジョン

■ミッション(使命)

我が国唯一の特別支援教育のナショナルセンターとして、国や地方公共団体等と連携・協力しつつ、 国の政策的課題や教育現場の課題に柔軟かつ迅速に対応する業務運営を行い、もって障害のある子ども 一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献します。

■ビジョン(改革・改善の方向性)

1. 国の行政施策に寄与する研究活動

国の政策的ニーズを把握し、それに対応した行 政施策の企画立案及び実施に寄与する研究を行い ます。

2. 現場の教育活動に資する実践的研究

教育現場のニーズを把握し、それに対応した、 大学では実施困難な研究や先導的かつ実践的な研 究を行い、研究成果を教育現場に還元します。

3. 指導者養成のための専門的な研修事業

地方公共団体において特別支援教育の指導的な 役割を果たす教職員を対象に、体系的・専門的な 研修事業を実施し、各地方公共団体が教職員の専 門性・指導力を高める活動を支援します。

4. 新しい課題に対応した研修事業

国の政策的な課題や教育現場の喫緊の課題につい て、柔軟かつ迅速に研修事業を実施するとともに、

研修事業に関する情報を提供し、地方公共団体における研修事業の企画立案及び実施を支援します。

5. 地方公共団体を支援する教育相談活動

教育相談実施機関に対するコンサルテーションや教育相談に関する各種情報提供を行い地方公共 団体における教育相談機能の質的向上を支援するとともに、地方公共団体では対応が困難な事例等 に特化した教育相談を実施します。

6. 特別支援教育関係情報の収集・分析・普及

特別支援教育に関する国内外の情報を収集・分析・整理するとともに、総合的な教育情報提供体制 を構築し、教職員の専門性や指導力の向上に必要な基礎的・専門的知識等を教育現場等に提供します。

7. 国内外の大学等関係機関との連携・協力

国内や海外の大学、研究機関等と連携・協力し、共同研究や国内・国際セミナー、国際協力等を 実施して、課題について調査、分析、評価等を行うとともに、アジア・太平洋地域をはじめ諸外国 に対し我が国の実践的な研究成果を発信します。

■バリュー(価値基準)

- ●事実に基づく質の高い研究や研修を実施します。
- ●ニーズを優先し、目的を明確にし、効率よく仕事をします。
- ●思いやりと優しさで人に接します。



Mission and Vision of NISE

■Mission of NISE

The mission of our institute as the National Institute of Special Needs Education is to contribute to: Improving the quality of education for children with disabilities and to make educational provision to meet individual educational needs. We aim to do this by working with the national and government organizations.

■ Vision of NISE

- 1. Research Activities that contribute to National Administrative Needs To undertake research that contributes to the formulation of National Policy for Children.
- 2. Practical Research that contribute to Educational Site To undertake advanced and practical research that contributes to educational site.
- 3. Specialized Programs for Teacher Training To provide systematic and special training for the school staff who plays the role of leadership in special needs education from local public organization and support them.
- 4. Training Programs that Respond to New Challenges To implement training program for the major issue of National Policy and/or urgent issue at educational site flexibly and promptly.
- 5. Counseling and Consultation Activities that Supports Local Public Organization To conduct consultation and provide the information for counseling and consultation to the organizations.
- 6. Information for Special Needs Education To collect, analyze, arrange and make database of the information on special needs education from domestic and overseas and provide comprehensive information to teaching site.
- 7. Cooperation and Partnership with Universities and Organizations in Domestic and Overseas To collaborate and cooperate with universities and organizations in domestic and overseas through seminars, to share our practical research results in special needs education. Also to research, analyze and evaluate the issues.





■ Value of NISE

- To provide high-quality research and training based on the fact.
- To prioritize the needs, clarify the objective and perform effective work.

History

NISE

1971年(昭和46年)10月 国立特殊教育総合研究所が神奈川県横須賀市野比に発足

1971年(昭和46年) 5月 国立特殊教育総合研究所の設置を内容とする文部省設置法の一部を改正する法律

1971年(昭和46年) 7月 文部省に国立特殊教育総合研究所設置準備室設置

1971年(昭和46年) 10月 国立特殊教育総合研究所の発足

企画室、運営部 (庶務課、会計課)、視覚障害教育研究部、聴覚·言語障害教育 研究部、精神薄弱教育研究部、肢体不自由·病弱教育研究部、情緒障害教育研

究部及び重複障害教育研究部 1972年(昭和47年) 3月 研修棟、研修生宿泊棟及び講師宿泊棟竣工

1972年(昭和47年) 5月 運営部研修情報課、教育工学研究部及び附属教育相談施設設置

1973年(昭和48年) 3月 教育相談母子宿舎竣工

1973年(昭和48年)9月 相互協力機関として国立久里浜養護学校設置

1973年(昭和48年) 9月 相互協力を行う機関として国立久里浜養護学校設置

1974年(昭和49年) 3月 国立特殊教育総合研究所研究紀要第1巻創刊

1976年(昭和51年) 5月 肢体不自由教育研究部と病弱教育研究部設置(肢体不自由・病弱教育研究部の改組) 国立久里浜養護学校附属武蔵野教育施設内に分室を設置

1981年(昭和56年)3月 国立特殊教育総合研究所英文紀要第1巻創刊

1981年(昭和56年) 4月 企画室を廃止し、総合企画調整官を設置

1981年(昭和56年)10月 国立特殊教育総合研究所10周年

1981年(昭和56年)10月 「十年誌」刊行

第1回APEID参加国によるアジア・太平洋地域特殊教育セミナー開催

1991年(平成3年)10月 国立特殊教育総合研究所20周年

1992年(平成 4年)10月 「二十年誌」刊行

創立20周年記念国際セミナー開催

1995年(平成 7年) 8月 東研修生宿泊棟竣工

1995年(平成7年) 9月 特殊教育情報棟(特殊教育情報センター)竣工

1996年(平成 8年) 4月 特殊教育情報センター発足

2001年(平成13年)4月 独立行政法人国立特殊教育総合研究所の発足

1999年(平成11年)12月 独立行政法人国立特殊教育総合研究所法(平成11年法律第165号)公布

2001年(平成13年) 4月 独立行政法人国立特殊教育総合研究所の発足

総務部、総合政策情報センター、視覚障害教育研究部、聴覚・言語障害教育研 究部、知的障害教育研究部、肢体不自由教育研究部、病弱教育研究部、情緒障 害教育研究部、重複障害教育研究部、情報教育研究部、分室及び教育相談セン

2001年(平成13年)10月 国立特殊教育総合研究所30周年

2001年(平成13年)10月 「三十年誌」刊行

創立30周年 · 独立行政法人発足記念式典

2004年(平成16年) 3月 大型改修工事完了

2004年(平成16年) 4月 組織の改編

企画部、教育支援研究部、教育研修情報部の3部門及び教育相談センター設置 (障害種別等の8研究部・18研究室、総合政策情報センター・教育相談センター

相互協力機関として筑波大学附属久里浜養護学校発足

(国立久里浜養護学校廃止)

2006年(平成18年) 5月 教育相談部設置(教育相談センターを改称)

2007年(平成19年)4月 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所に名称変更

2006年(平成18年) 6月 学校教育法の一部を改正する法律(平成18年法律第80号)公布

2007年(平成19年) 4月 学校教育法の一部を改正する法律(平成18年法律第80号)等の施行

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所に名称変更

















Apr. 2007



Enforced the law to revise a part of the School Education Act (2006.the 80th law)

Renamed to "National Institute of Special Needs Education"

The Reorganized Department of Administration

総務部の改編

組織

Organization

役職員

Staff



```
小 田鎌 田
          大 南 英 明・遠 藤 淳 子
監事 (非常勤)
企 画 部
           鎌田
企画部長 (兼)
          大 内
                   進 (総合企画調整担当)
上席総括研究員
             本
                   健 (国際交流担当)
上席総括研究員
総括研究員
                   人(政策調整担当)
                      (研究企画担当
                   豊(国際比較担当)
総括研究員
          中 澤 惠 江 (兼) (国際比較担当)
棟 方 哲 弥 (評価担当)
萩 元 良 二 (行財政等担当)
総括研究員
総括研究員
総括研究員
教育支援研究部
教育支援研究部長(兼)
             田耕
          笹
             本
                   健 (兼) (生涯学習担当)
上席総括研究員
                義
                   賢 (小中学校等教育支援担当)
上席総括研究員
             田 耕 基 (特別支援学校教育支担
牧 謙 吾 (医療·福祉連携担当)
                   基 (特別支援学校教育支援担当)
上席総括研究員
          原 田 公 人 (移行·高等教育支援担当)
田 中 良 広 (視覚障害担当)
総括研究員
総括研究員
          廣瀬 中美子(知的障害·白閉症担当)
総括研究員
          漢 田 真 弓 (視覚障害担当)
小 田 侯 朗 (聴覚障害担当)
総括研究員
総括研究員
          木 村 宣 孝 (知的障害・自閉症担当)
総括研究員
総括研究員
          當島茂登(福祉·肢体不自由担当)
総括研究員
                     (医療·重複障害担当)
          藤 井 茂 樹 (医療・病弱担当)
中 澤 惠 江 (低発生・感覚系重複担当)
総括研究員
総括研究員
総括研究員
                     (言語・コミュニケーション担当)
          笹森洋樹(LD·ADHD等担当)
総括研究員
教育研修情報部
教育研修情報部長(兼)
          中 村
上席総括研究員
                     (教育研修扣当)
          中村
                   均 (情報普及担当)
上席総括研究員
総括研究員
             村
                勘
                   由(研修企画担当)
総括研究員
          渡 邉
                   萱(教育情報扣当)

    教育相談部長(兼)
    後上
    鎌夫

    上席総括研究員
    後上
    鎌夫(教育相談担当)

    総括研究員
    小林倫代(相談連携・普及担当)

教育相談部長(兼)
総括研究員
総務部

    総務部長安田
    修企画調整課長 沓澤

    総務課長川崎市信之

研修情報課長 戸澤 和 夫
 運営委員
芦 崎 隆 夫 全国特別支援学級設置学校長協会会長
池 田 敬 史 全国肢体不自由養護学校長会会長
池 田 由紀江
           健康科学大学健康科学部教授
加 我 牧 子 国立精神・神経センター 精神保健研究所知的障害部長 香 川 邦 生 健康科学大学健康科学部教授
神 尾 裕 治 全国特別支援学校長会長・全国盲学校長会会長
北 村 光 之 横浜訓盲学院学院長
司 国立教育政策研究所長
子 北斗市教育委員会委員長
           前福島県養護教育センター所長
           国立身体障害者 リハビリテーションセンター
寺 山 久美子 帝京平成大学健康メディカル学部長
西川公司筑波大学教授
     茂 和 全国聾学校長会会長
     孝
           神奈川県教育委員会教育長
        和 全国特別支援教育推進連盟理事長
     由紀雄
           全国知的障害養護学校長会会長
山 田 庄 治 全国病弱養護学校長会会長
役
             4 (2)
一 般 職
           2 8
研 究 職
           5 1
医療·技術職
           87 (2)
     計
( )内は非常勤で内数
```

```
Takaichi Hikichi
Hitoshi Miura
Yukio Mitoma
Shouji Yamada
Clerical Staff
```

Yutaka Oda Executive Director Sakashi Kamada Hideaki Oominami, Junko Endou Supervisor Department of Policy and Planning Department Head Sakashi Kamada Research Director Susumu Oouchi (General Planning Coordinator) Research Director Ken Sasamoto (International Exchange) Senior Chief Researcher Hiroto Fujimoto (Policy and Coordinator) (Research Planning) Senior Chief Researcher Yutaka Tokunaga (International Comparison) Senior Chief Researcher Megue Nakazawa (International Comparison) Senior Chief Researcher Tetsuya Munekata (Evaluation) Senior Chief Researcher Ryoji Hagimoto (Administration and Finance) Department of Educational Support Research Department Head Kouki Chida Research Director Ken Sasamoto (Lifelong Learning) Research Director Yoshikata Atsumi (Education in Ordinary School) Research Director Kouki Chida (Education in Special Schools) Research Director Kengo Nishimaki (Medical and Welfare Coordinator) Senior Chief Researcher Kimihito Harada (Transition and Higher Education) Senior Chief Researcher Yoshihiro Tanaka (Visual Impairment) Senior Chief Researcher Yumiko Hirose (Intellectual Disabilities and Autism) Senior Chief Researcher Mayumi Sawada (Visual Impairment) Senior Chief Researcher Yoshiaki Oda (Hearing Impairment) Senior Chief Researcher Nobutaka Kimura (Intellectual Disabilities and Autism) Senior Chief Researcher Shigeto Toushima (Physical/motor Disabilities and Welfare) Senior Chief Researcher (Multiple Disabilities and Medicine) Senior Chief Researcher Shigeki Fujii (Health Impairments and Medicine) Senior Chief Researcher Megue Nakazawa (Rare and Multiple Sensory Disabilities) Senior Chief Researcher (Language and Communication) Senior Chief Researcher Hiroki Sasamori (LD and ADHD) Department of Teacher Training and Information Department Head Hitoshi Nakamura (Teacher Training) Research Director Hitoshi Nakamura (Information Resources and Technology) Senior Chief Researcher Kanyu Matsumura (Planning of Training Courses) Senior Chief Researcher Akira Watanabe (Educational Information Resources) Department Head Tetsuo Gokami Research Director Tetsuo Gokami (Counseling and Consultation) Senior Chief Researcher Michiyo Kobayashi (Coordination and diffusion) Department of Administration Department Head Osamu Yasuda Chief of Planning and Coordination Susumu Kutsuzawa Chief of General Affairs Nobuyuki Kawasaki Chief of Information Kazuo Tozawa Takao Ashizaki Takashi Ikeda Yukie Ikeda Tadao Umetani Naoki Onuma Makiko Kaga Kunio Kagawa Yuii Kamio Mituyuki Kitamura Shinji Kondo Hiroko Kondo Isao Shiga Hajime Tamura Kumiko Teravama Koji Nishikawa Shigekazu Hayashi

Total

87 (2)

業務部門

Departments

企画部

- 1. 研究所の所掌事務に係る調査及び研究に関する総合的な企画及び立案並びに調整に関すること。
- 2. 障害者の教育の政策的課題に関する調査・分析に関すること。



- 3. 障害者の教育の実際的・総合的な研究に関すること。(教育支援研究部、 教育研修情報部及び教育相談部の所掌に係るものを除く。)
- 4. 専門的研究課題の設定の助言及び調整に関すること。
- 5. 研究所の所掌事務に係る評価に関する企画及び立案に関すること。
- 6. 外国の障害者の教育に関する基礎的な事項の調査及び研究に関すること。
- 7. 外国の研究機関、大学等の連携協力及び関係者に対する助言に関するこ
- 8. 国内外の障害者の教育の関係機関及び関係者に対し、障害者の教育に関 する研究の促進に関すること並びに情報の収集及び提供等に関し支援を 行うこと。(教育支援研究部、教育研修情報部及び教育相談部の所掌に係 るものを除く。)

|教育支援研究部

- 1. 障害者の教育の内容及び方法等に関する調査及び研究に関すること。(企画部及び教育研修情報部 の所掌に係るものを除く。)
- 2. 障害者の生涯学習、乳幼児期教育支援等に関する調査及び研究に関すること。(教育相談部の所掌 に係るものを除く。)
- 3. 障害者の高等教育における学習支援方策等に関する調査及び研究に関すること。
- 4. 発生頻度が低い障害及び医療・福祉等に関わる教育的支援に関する調査及び研究に関すること。
- 5. 上記に関し、国内の関係機関と連携及び協力並びに国内の関係機関及び関係者に対し支援を行う こと。

|教育研修情報部

- 1. 研究所の行う研修事業の企画及び立案に関すること。
- 2. 教職員の資質向上に関する調査及び研究に関すること。
- 3. 障害種等に応じた専門的な研修のモデルプログラムの開発・提 供に関すること。
- 4. 地方公共団体の研修実施への支援に関すること。
- 5. 障害者の教育の情報手段の活用に関する調査及び研究に関する こと。
- 6. 研究所の研究成果等に関する公表及び普及に関すること。
- 7. 障害者の教育の情報及び資料の収集・提供等に関する調査及び研究に関すること並びにこれらに ついて、国内の関係者に対し、助言を行うこと。

教育相談部

- 1. 障害者に関する教育相談に係る調査及び研究に関すること。
- 2. 障害者に関する教育相談のうち主として地方公共団体等と連携した専門的かつ総合的な相談に関 すること。
- 3. 教職員への相談、助言、指導及び支援に関すること。
- 4. 都道府県教育センター等における教育相談への支援に関すること。
- 5. 教育相談に係る情報の提供に関すること。

■Department of Policy & Planning

- 1. Planning and formulating the whole of the researches or investigation projects.
- 2. Conducting investigation and analysis of policy issues on special education.
- 3. Conducting practical, comprehensive researches on special education.
- 4. Providing advice and adjustment for local education boards/ special education centers or other organizations concerned to adopt theme of studies on specific issues.
- 5. Organizing the inner/third party board to evaluate NISE research activities.
- 6. Collecting information on researches and studies of special education in foreign countries concerning the characteristic profile of disabilities.
- 7. Promoting international cooperation with research organizations, institutions or I教育支援研究部 universities abroad.
- 8. Providing supports to organizations concerned at home and abroad to conduct researches and studies on special education and to exchange collected data or outcome of researches.



NISE

■Department of Educational Support Research

Conducting investigation and research studies;

- 1. On the curriculums and methods of educating students with disabilities.
- 2. On Lifelong Learning for students with disabilities and Early Intervention for children with disabilities.
- 3. On learning support policy for students with disabilities in higher education.
- 4. On rare disabilities and educational support in cooperation with medical/welfare organization.
- 5. Providing supports to and cooperation with organizations concerned to conduct above-mentioned matters efficiently.

■Department of Teacher Training and Information

- 1. Planning in-service teacher training programs at NISE.
- 2. Conducting research studies on improvement/development of teaching skills and gaining further knowledge of teachers/administration staff in charge of special education.
- 3. Developing and offering model programs of in-service training concerning each specific disability.
- 4. Supporting teacher training programs conducted by local education boards or special education centers throughout the nation.
- 5. Conducting research studies on educational information technology for students with disabilities.
- 6. Publicizing and disseminating of NISE research outcomes.
- 7. Conducting research studies on accumulation and provision of information resources on special education. Advising on information resources of special education to teachers, researchers and administration staff in charge of special education.

■Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs



- 1. Conducting researches and studies on counseling and consultation services of special education.
- 2. Promoting mutual understanding and the exchange of information between local special education centers and organizations.
- 3. Offering advice, guidance and supports to teachers and other related staff involved in special education.
- 4. Supporting other counseling services conducted by local education centers or other organizations.
- 5. Providing information of counseling and consultation services for children with disabilities.

Research

NISE

■プロジェクト研究

政策課題や教育現場のニーズに基づく喫緊の課題に関する実践的・総合的研究であり、横断的 なプロジェクトチームを任期制で編成して実施しています。

1. 小・中学校における障害のある子どもへの「教育支援体制に関する在り方」及び「交流 及び共同学習」の推進に関する実際的研究 (平成16年度~19年度)

> 研究代表者 藤本 裕人 (企画部 総括研究員) 所内研究分担者 廣瀬由美子*・後上鐵夫・田中良広・藤井茂樹・滝川国芳・内田俊行

本研究では、「今後の特別支援教育の在り方」に関する調査研究協力者会議の最終報告及び中央教育審議会「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」(答申)を受け、小・中学校における特別支援教育体制を推進するための研究に取り組んでいます。H16~17年度では、①特殊学級や通級指導教室において、障害の多様化を踏まえ柔軟かつ弾力的な対応が可能となるような方法の検討、②通常の学級に在籍する児童生徒の障害に応じた特別な指導や教科指導等、一人一人の教育的ニーズに対応が可能な「特別支援教室(仮称)」についての検討を行い、指導資料「小・中学校における障害のある子どもへのアプローチ特殊学級・通級指導教室による指導・運営のGood Practice」を作成しました。この検討状況を踏まえ、「特別支援教室(仮称)」の特性及び「地域内支援体制の構築」方法の検討をさらに進めると同時に、

障害者基本法や答申で示された「交流及び共同学習」 を推進するための方法の検討を行っていきます。

*本研究は平成16~18年度プロジェクト研究「小・中学校における障害のある子どもへの教育支援体制に関する研究」と平成17年~19年度プロジェクト研究「交流及び共同学習に関する実際的研究」の2つの研究において、①「特別支援教室(仮称)」は障害のある児童生徒が通常の学級で学習することと密接な関係があること、②特別支援教育の推進において両者の研究の関係が深いことが検討段階で明らかになり、2つのプロジェクト研究を一本化しました。





2. 特別支援学校における自閉症の特性に応じた指導パッケージの開発研究 (平成18年度~19年度) -総合的アセスメント方法及びキーポイントとなる指導内容の特定を中心に-

研究代表者 德 永 豊 (企画部 総括研究員) 所内研究分担者 木村宣孝*・齊藤宇開*・小澤至賢・内田俊行・柳澤亜希子 特任研究員:小塩允護(愛知淑徳大学 文学部 教授)

今後の特別支援教育の推進に当たって、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室などにおける自閉症に特化した教育課程や指導法、学校生活の在り方についての検討が喫緊の課題となっています。本研究は、この課題に応えるために、総合的なアセスメント方法と、自閉症教育においてキーポイントとなる指導内容の特定を中心に、自閉症の特性に応じた「指導パッケージ」の開発研究に取り組みます。本研究は、

平成17年度までの3年間で行ったプロジェクト研究において編集・出版した「自閉症教育実践ガイドブック」や「自閉症教育実践ケースブック」、「最終報告書」で明らかにした自閉症に特化した指導内容、指導法、環境整備などの在り方に関する発展的研究です。







※は研究副代表

■High Priority Research Projects

Practical and comprehensive research on an urgent problem based on policy issue and an educational site, and cross-cutting project team is organized and executed by the team.

1. A Practical Study on Promotion of "Effective Educational Support System" and "Exchange & Cooperative Study" for Children with Disabilities in Elementary and Lower-secondary Schools 2004-2007

Research Representative **Hiroto Fujimoto** (Senior Chief Researcher, Department of Policy and Planning)

Research Partaker Yumiko Hirose**, Tetsuo Gokami, Yoshihiro Tanaka, Shigeki Fujii, Kuniyoshi Takigawa, Toshiyuki Uchida

In this research, we work on the study to promote the Special Support Education System in regular classes of Elementary & Lower-secondary Schools based on the final report of "The Future of Special Support Education" from Meeting of Researchers on Special Support Education and of "The System for Promoting Special Support Education" from Central Education Council.

In the past two years (2004-2005), we've examined on the followings: (1) the consideration of the educational method based on the diversification of disabilities which enable teachers to respond flexibly in the special classes and Tsukyu classes, (2) the consideration of "Special Classes" in which educational services are enhanced depending on individual educational needs, such as supplemental lessons and course instruction based on disabilities of each child/student in regular classes, and the publication of the reference material "How to approach for children with disabilities in elementary and lower-secondary schools: the Good Practice for leading and managing the special classes and Tsukyu classes". On the basis of these considerations, we have continued discussion on not only the feature of special classes (tentative name) and the way of the department for support system of children with disabilities within certain regions, but also we've studied on how to promote "Exchange & Cooperative Study" which is touched on Disabled Persons Fundamental Law and the final report above.

This is the unified research of the followings: "Research Study on Effective Educational Support System for Children with Disabilities in Regular Elementary and Lower-secondary Schools" and " A Practical Study on Exchange & Cooperative Study for Students with Disabilities and Students without Disabilities" we conducted previous year, because of (1) "Special Classes (tentative name)" is closely-linked to the situation of disabled students learning in regular classes, (2) In the process of consideration, we found that these two researches are related closely to promote Special support education.

2. Research on Development of the Instruction Package Based on the Special Needs of Children with Autistic Disorders in Schools for Special Needs Education 2006-2007

Focused on the comprehensive assessment method and particular key point of instruction content.

Research Representative **Yutaka Tokunaga** (Senior Chief Researcher, Department of Policy and Planning)
Research Partaker Nobutaka Kimura*, Ukai Saitou*, Michimasa Ozawa, Toshiyuki Uchida, Akiko Yanagisawa Special-Appointment Researcher Chikamori Oshio (Professor, Faculty of Letters, Aichi Shukutoku University)

Developing specific curriculum, effective instructional methods and meaningful school lives based on the special needs of children with autitic disorderes has become urgent issue in schools for special needs education, special classes and resource rooms of the regular schools. This research aims at developing specific instructional package which consisted from comprehensive assessment methods and instructional programs for key behavioral components-pivotal responses and so on, based on special needs of children with autistic disorders.



Research

■プロジェクト研究

3. 小・中学校における特別支援教育への理解と対応の充実に向けた総合的研究(平成18年度~19年度)

研究代表者 松村 勘由(教育研修情報部 総括研究員)

所内研究分担者 大内 進^{*}・笹本 健・西牧謙吾・小田侯朗・當島茂登・藤井茂樹・笹森洋樹 牧野泰美・徳永亜希雄・滝川国芳・横尾 俊・渡邉正裕・伊藤由美・植木田潤 亀野節子



小・中学校における特別支援教育体制の整備・充実を進め、問題の解決を図るための総合的な支援ツールの開発を目的とします。本研究は、国が進めている特別支援教育推進政策に対応し、特に、平成19年度を目途に完了する小・中学校における校内支援体制整備の進捗を踏まえ、その機能の具現化に向けての諸課題の実現や解決に寄与するものです。

4. 発達障害のある子どもの早期からの総合的支援システムに関する研究

(平成18年度~19年度)

研究代表者 渥美 義賢(教育支援研究部 上席総括研究員) 所内研究分担者 後上鐡夫*・笹森洋樹*・棟方哲弥・廣瀬由美子・澤田真弓・藤井茂樹 小林倫代・久保山茂樹・大柴文枝・海津亜希子・玉木宗久・齊藤由美子

LD、ADHD、自閉症等の発達障害については早期から発達段階に応じた支援を行っていくことが必要であり、特に早期発見・早期支援の重要性はきわめて高い。これを具体化することは発達障害者支援法に規定された国の責務であります。この責務に対応するため、文部科学省・厚生労働省が一体となった早期発見・早期支援の総合的支援システムの構築に関する研究を行います。



■High Priority Research Projects

3. Comprehensive Research toward Understanding and the Fullness of Correspondence to Special Support Education in Elementary and Junior High school 2006-2007

Research Representative **Kanyu Matsumura** (Senior Chief Researcher, Department of Teacher training and Information)

Research Partaker Susumu Oouchi^{*}, Ken Sasamoto^{*}, Kengo Nishimaki, Yoshiaki Oda, Shigeto Toshima, Shigeki Fujii,
Yasumi Makino, Akio Tokunaga, Kuniyoshi Takigawa, Shun Yokoo, Masahiro Watanabe,
Yumi Ito, Jun Uekida, Setsuko Kamei

We support the advance of the special support education in elementary school and junior high school on this comprehensive research. We develop the total supportive tool for the problem solving in the special support education. This research corresponds to the concept of the education policy of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. This research is useful for the advancement of total education system as the special support education.



4. Research on the Comprehensive Support from the Early Stage of the Children with LD, ADHD, and High-Functioning Autism 2006-2007

Research Representative **Yoshikata Atsumi** (Research Director, Department of Educational Support Research)

Research Partaker Tetsuo Gokani^{**}, Hiroki Sasamori^{**}, Tetsuya Munekata, Yumiko Hirose, Mayumi Sawada, Shigeki Fujii,

Michiyo Kobayashi, Shigeki Kuboyama, Fumie Oshiba, Akiko Kaizu, Munehisa Tamaki, Yumiko Saito



The early identification and intervention are very important for the people with developmental disabilities such as attention-deficit/hyperactivity disorder(ADHD), learning disabilities(LD) and higher-functioning autism(HFA). These are the responsibility of national government under the law of 'Hattatsu-Shougaisha Shien Hou'. The aim of this research project is to design the models of effective and comprehensive systems of early identification and intervention for the people with ADHD, LD and HFA.

※は研究副代表

■課題別研究

障害種別に対応した専門的研究であり、教育現場等のニーズの優先度などに応じて採択される課題です。

1. 盲学校における視覚障害者教育の専門性の向上と地域におけるセンター的機能を果たすための小・中学校等のニーズに対応した支援の在り方に関する実際的研究

(平成18年度~19年度)

研究代表者 大 内 進(企画部 上席総括研究員) 所内研究分担者 田中良広*・澤田真弓*・千田耕基・金子 健・渡辺哲也

◆障害種別:視覚障害

視覚に障害のある児童生徒への支援の地域の核となる盲学校は、支援のための指導方法の専門性が求められながら、児童生徒の少人数化多様化の中でその積み重ねが困難な状況にあります。そこで、全国の盲学校を地域で学ど相覚障害児童生徒の学習方法についての実能型場を進めるととれば、

学校や地域で学ぶ視覚障害児童生徒の学習方法についての実態把握を進めるとともに、 視覚障害教育で培われてきた教科の指導方法や教材教具の成果、前年度までの課題別 研究で開発してきた最新の情報技術を活用した教材作成法等の成果に関する情報を整 理し、指導法や教材の活用に関する手引きの作成を進めます。

センター的機能としての地域の小・中学校等への支援という観点から、それらを活用して支援する上での配慮点などについて検証します。

それらの成果は、本研究所で運営しているWebを利用した「視覚障害教育情報ネットワーク」コンテンツの充実に活かしていきます。



2. 聾学校におけるコミュニケーション手段に関する研究 -手話を用いた指導法と教材の検討を中心に-

(平成18年度~19年度)

研究代表者 小田侯朗(教育支援研究部 総括研究員) 所内研究分担者 原田公人*・牧野泰美

◆障害種別:聴覚障害

聾学校における手話の活用は現場における喫緊の課題であり、平成16年度から17年度にかけて教職員の手話活用能力と手話研修に関する研究として実施してきました。本研究はそれを引き継いで、手話を用いた効果的な指導法と手話教材の活用について検討を進めています。全国的な調査により手話活用による指導法等の整理を行うとともに、学校や児童生徒の実態に応じた手話活用という観点から手話活用授業の分析を引き続き進めています。また手話教材の分析・共有等についても検討を行っています。



Research in Specific Areas

Specialized research corresponding to the clarification of disabilities and adopt depends on priority to the needs in teaching.

1. Practical Research on Special Improvement of Visual Impairments Education of School for the Blind and the Support for its Needs in Primary and Secondary School to Carry out as the Function of Resource Center on Education for the Visual Impairments in the Area 2006-2007

Research Representative **Susumu Oouchi** (Research Director, Department of Policy and Planning)
Research Partaker Yoshihiro Tanaka*, Mayumi Sawada*, Koki Chida, Takeshi Kaneko, Tetsuya Watanabe

◆Specialization/Area: Visual Impairments

This study focuses on the actual situation of learning condition for students with visual impairments and the results of teaching methods and of creating teaching materials using the newest information technology developed from the prior research in our team and it's practical use for the student's needs.

These results are the best of "information network for the Education of People with Visual Impairments".



Research

2. Research of Communication Means on School for the Deaf -Improving instructional method and educational materials focused on using Sign Language- 2006-2007

Research Representative **Yoshiaki Oda** (Senior Chief Researcher, Department of Educational Support Research)
Research Partaker Kimihito Harada^{**}, Yasumi Makino

◆Specialization/Area: Deaf and Hard of Hearing

This research is focused on improving instructional method and educational materials using Sign Language. The national survey on instructional method at the school for the deaf, and analyzing teaching-learning interaction using Sign Language will be conducted on this research. Teaching materials related to Sign Language also discussed on its effective usage, sharing system, and so on. On this research we carry out the development succession of the research which performed till last year.

※は研究副代表

Research

NISE

■課題別研究

3. 難聴・言語障害児を地域で一貫して支援するための体制に関する実際的研究

(平成18年度~19年度)

研究代表者 小林倫代(教育相談部 総括研究員) 所内研究分担者 久保山茂樹*・小田侯朗・藤井茂樹

◆障害種別:難聴・言語障害

本研究所では、全国の難聴・言語障害学級および通級指導教室の実態調査を踏まえ、 地域における特別支援教育の入り口の一つとして機能している難聴・言語障害学級及び 通級指導教室の活動例や、難聴・言語障害児を一貫して支援している取り組みについて 紹介します。これらの実践から地域で果たす難聴・言語障害学級や通級指導教室の役割 および今後の方向性について考えます。



4. 知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究 - 職業教育の視点から - (平成18年度~19年度)

> 研究代表者 木村 宣孝(教育支援研究部 総括研究員) 所内研究分担者 萩元良二*・徳永 豊・小澤至賢・太田容次・内田俊行・齊藤宇開

◆障害種別:知的障害

知的障害養護学校高等部卒業生の就職率が減少傾向にある中、障害者自立支援法の施行、障害者雇用促進法改正等、新たな障害福祉、就労サービス体系への移行が進められています。生徒の社会的自立、社会参加を実現するためには、関係機関と連携した就労支援の拡充及び職業意識や勤労観を高める指導の一層の充実が求められています。本研究所では、キャリア発達の視点を踏まえて、児童生徒の勤労観、職業観を育成するための指導内容・方法を整理し、「キャリア発達段階表(仮称)」の作成及び今後の職業教育の在り方について研究します。

5. 肢体不自由のある子どもの教育活動における「評価」及び「授業の改善・充実」に関する研究 (平成18年度~平成19年度)

研究者代表 當島 茂登(教育支援研究部 総括研究員) 所内研究分担者 渡邉 章*·徳永 豊

◆障害種別:肢体不自由

本研究は、肢体不自由のある子どもが在籍している各学校や学級でのさまざまな教育活動における「評価」及び「授業の改善・充実」に関する実践的研究を行います。一人一人のニーズに応じた教育を推進する特別支援教育の発展に向けて、評価の客観性や信頼性を高めるための評価方法の工夫

や改善が求められています。しかし、各学校や学級では在籍児の障害の重度・重複化、多様化の中で、評価がますます重要な課題になっていますが、十分とはいえない現状にあります。本研究では、先進的に取り組んでいる学校を軸に据えながら、教育活動に欠かせない評価方法及び授業改善・充実に向けた課題について多角的な検討を行います。本研究は、平成17年度の課題別研究「肢体不自由のある子どもの指導と支援に関する研究-自立活動の手引書の作成-」のフォローアップ研究として位置づけています。



※は研究副代表

■ Research in Specific Areas

3. Practical Research on the Community-Based System to Consistent Support for Children with Speech and Hearing Handicap. 2006-2007

Research Representative **Michiyo Kobayashi** (Senior Chief Researcher, Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs)
Research Partaker Shigeki Kuboyama*, Yoshiaki Oda, Shigeki Fujii

◆Specialization/Area: Speech and Hearing Handicaps

In this research, the purpose is to clarify the directionality in the role and the future of resource room for the speech and hearing impaired that is located closely to the region.

The resource room is the first organization in the region where the child related to the special support education, and corresponds continuously from an infant to school age. We visit the school which is performing characteristic and community-based practice, introduce those information and examines and the role of resource room.

4. Research on the Content of Instruction and Method toward Good Employment for Students with Intellectual Disabilities -From the view point of career education-2006-2007

Research Representative **Nobutaka Kimura** (Senior Chief Researcher, Department of Education Support Research)

Research Partaker Ryoji Hagimoto**, Yutaka Tokunaga, Michimasa Ozawa, Hirotsugu Ota, Toshiyuki Uchida, Ukai Saito,

◆Specialization/Area: Intellectual Disabilities

While the employment rate of the people with intellectual disabilities has been decreasing, a new education, welfare and employment service for these people has been developed in these days. In this research, we study on the contents of instruction and methods as Career education. Effective career education is to faster students' ideas about works and good awareness of working in each stage of primary school, junior high school and high school.

5. Evaluation and Lesson Improvement of Educational Activities for the Children with Physical/Motor Disabilities 2006-2007

Research Representative **Shigeto Toushima** (Senior Chief Researcher, Department of Educational Support Research) Research Partaker Akira Watanabe *, Yutaka Tokunaga,

♦Specialization/Area: Physical/Motor Disabilities

This is a practical research on "Evaluation" and "Improvement and enhancement of the lesson" of various educational activities in each school and class where the children with physical/Motor disabilities attend. The creativity and improvement of the evaluation method are needed to enhance the objectivity and reliability of the evaluation, also to develop the special support education based on the individuals needs.

However, it does not seem to be enough even though the evaluation has been more important subject in those educational sites. This research performs multiple investigations for the evaluation method, improvement and fullness of the lesson. This is to follow up the subject "A study on educational program and support system for children with Physical/Motor Disabilities-Making of Guidebook" and "Jiritsu-Katsudou (Activities to promote independence)" which was performed in 2005.

Research

|課題別研究

6. 我が国の病気のある子どもの教育の在り方に関する研究 -病弱教育と学校保健の連携を視野に入れて-

(平成18年度~19年度)

研究代表者 西牧 謙 吾(教育支援研究部 上席総括研究員) 所内研究分担者 滝川国芳*

特任研究員:加藤忠明(国立成育医療センター研究所 成育政策科学研究部長)

◆障害種別:病弱

全国で病気による長期欠席者が4万人以上おり、多くが通常教育を受けているのにもかかわらず、病弱 教育からのアプローチが希薄でした。また、全国的にみて病弱教育を専門に研究する大学教員も少なくな く、日本における研究体制に大きな課題が残されています。そこで、新しい試みとして病弱教育を一貫し たテーマにしながら、その中の柱としていくつかの具体的な研究課題を設定し、総合的な病弱教育研究体 制の構築を図ります。テーマは、中教審の院内学級のあり方に関する課題に対応して、病気による長期欠 席者を支える体制整備に関する研究と、病弱特別支援学校の教育機能強化に関する研究(教育課程、指導 法の組み立て方、慢性疾患児の自己管理に関する研究を含む)です。進め方は、研究所が総合的なマネー ジメントを行い、特別支援学校、(特別支援)教育センター等、大学と連携しながら進める予定です。ま た、希少疾患に関する情報センター構想の準備的研究を行います。

7. 重複障害児のアセスメント研究

- 自立活動のコミュニケーションと環境の把握に焦点をあてて-(平成18年度~19年度)

> 研究代表者 齊藤由美子(教育支援研究部 研究員) 所内研究分担者 中澤惠江*・後上鐵夫・大崎博史

◆障害種別:重複障害

コミュニケーションが困難な重複障害児の個人因子と環境因子についての総合的アセスメントを提案す ることを目的としています。本研究では、教育に最もつながりの深い、自立活動におけるコミュニケーシ ョンと環境の把握のアセスメントに焦点をあてます。教育実践をするにあたっては、P(計画)D(実施) S(評価)が不可欠ですが、そのためには、担当する児童生徒とその子どもを取り巻く状況のアセスメン トが必要です。しかし、「学習が著しく困難」とされる重複障害児は、コミュニケーションの難しさから アセスメントが十分になされないままに教育活動が行われ、結果として途中の形成的評価も教育成果の評 価も行われ難い現状が生じています。本研究課題では、教育活動に関わりが深いコミュニケーションと環 境の把握について、重複障害児の個人因子に関わるアセスメント研究を行います。

(研究全体の概要)

- ①1年目にアセスメントについての従来の研究の総括をしたうえで、視覚を通した環境の把握に関する アセスメントを提案しました。
- ②2年目にはコミュニケーションに関するアセスメントを提案し、さらに研究協力機関と協力し、提案 した2つのアセスメントの実施及び改良を行います。

※は研究副代表

■Research in Specific Areas

6. Research on the Education for Children with Health Impairments in Japan -With the perspective of partnership between education for children with health impairments and school health- 2006-2007

Research Representative Kengo Nishimaki (Research Director, Department of Educational support Research) Research Partaker Kuniyoshi Takigawa*

Special-Appointment Researcher Tadaaki Kato (Department head, Department of Health Policy, National Research Institute for Child Health and Development)

♦Specialization/Area : Health Impairments

There are over 40,000 long-term absentees with health impairments in Japan and the approach from special needs education has been thin even though the most of them are receiving regular education. The theme is to study on the organization of systems supporting the long term absentees and the research on the strengthening of educational function at schools for special needs education. This research is cooperated with special needs schools, local centers for special needs education and universities for special needs education under the total management by NISE.



7. Research on Assessment for Children with Multiple Disabilities -With focus on communication and understanding environment- 2006-2007

Research Representative Yumiko Saito (Researcher, Department of Education Support Reserch) Research Partaker Megue Nakazawa**, Tetsuo Gkami, Hiroshi Osaki

♦Specialization/Area: Multiple Disabilities

The present research aims at proposing a comprehensive assessment program for children with multiple disabilities who have difficulties in communication, from the aspects of individual and environmental factors. The P (Planning), D (Doing) and S (Seeing or Evaluating) are steps indispensable to educational practices, and assessments of the child and the environment surrounding the child are a pre-requisite to the PDS steps. However, children with multiple disabilities who are considered to have "extreme difficulties in learning" are often left without appropriate assessment due to the difficulties in communication. Such circumstances lead to insufficient evaluation of educational results. In this study, which covers the first half of the four-year project, research on the assessment



of individual factors of children with multiple disabilities is conducted with focus on communication and understanding environment as they are linked most closely with education. The proposed assessment program will be field tested in the final year.

Research

■課題別研究

8. ICF児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究 (平成18年度~19年度)

研究代表者 **徳永 亜希雄** (企画部 主任研究員) 所内研究分担者 笹本 健*・大内 進・西牧謙吾・萩元良二・渡邉正裕

◆その他 (ICF)

本研究は、WHO(世界保健機構)のICF-CY(国際生活機能分類児童青年期バージョン)の教育施策への活用の方向性について検討する開発研究です。「障害者基本計画(2002)」でICFの活用施策を検討する必要性が指摘されて以降、特別支援教育の分野においてもさまざまな活用が図られ、成果や課題が明らかになってきました。そのことを踏まえ、本研究では、ICF児童青年期バージョンの我が国の教育施策への活用の方向性について具体的に検討します。



9. 通常の学級で学習する障害のある子どもの日本語の音韻・音節の認識に関する研究 -書き言葉において間違えやすい日本語の特殊音節の特性の分析と指導方法の開発-(平成18年度~19年度)

> 研究代表者 藤本裕人(企画部 総括研究員) 所内研究分担者 藤井茂樹*・西牧謙吾・海津亜希子

◆その他 (発達障害)

現在、発達障害児等の教育において、日本語の特殊音節といわれる促音や拗音などの「話し言葉」を「書き言葉」に表記する際に、誤りが生じやすいことが指摘されています。本研究では、児童の「聴知覚」に着目し、聴いて書く場合に誤りやすい日本語の音韻・音節の特性を調べ、聴覚的な認知に着目した「正しい書き言葉」の表記に関する指導方法の開発を行うものです。

10. 小中学校における自閉症・情緒障害の児童生徒の実態把握と教育的支援に関する研究 -特別支援学級及び通級指導教室の実態調査から- (平成19年度)

> 研究代表者 **笹** 森 **洋** 樹 (教育支援研究部 総括研究員) 所内研究分担者 廣瀬由美子**

◆障害種別:情緒障害

通級による指導では、発達障害である自閉症と心因性の情緒障害が分類されましたが、特別支援学級については今後の検討課題になっています。本研究は、全国の小中学校の情緒障害特別支援学級及び自閉症と情緒障害の通級指導教室について、障害の種類、知的発達の程度等の児童生徒の実態と指導内容等を分析することにより、小中学校における自閉症・情緒障害教育の現状を明らかにし、今後の在り方について検討することを目的としています。

※は研究副代表

■Research in Specific Areas

8. Developmental Research on the Use of ICF Version for Children and Youth (ICF-CY) to Educational Policy 2006-2007

Research Representative **Akio Tokunaga** (Chief Researcher, Department of Policy and Planning)
Research Partaker Ken Sasamoto**, Susumu Oouchi, Kengo Nishimaki, Ryouji Hagimoto, Masahiro Watanabe

♦Non Category

This study aims Development on the use of ICF version for Children and Youth (ICF-CY) to Educational Policy, which will be endorsed by WHO (World Health Organization). The ICF has been utilized on special needs education for students with disabilities, after statement that ICF should be considered for utilization on "Basic Program for Persons with disabilities" (Cabinet Office, 2002). This study will review the directional property of utilization ICF-CY in response to their outcome and issues.



 Research on Japanese phoneme and recognition of Syllable for Children with Developmental Disabilities in a Regular Class Room -Analysis the characteristic of Japanese special syllable which is to be mistaken and development of the teaching technique- 2006-2007

Research Representative **Hiroto Fujimoto** (Senior Chief Researcher, Department of Policy and Planning)
Research Partaker Shigeki Fujii*, Kengo Nishimaki, Akiko Kaizu,

♦Non Category

It is now pointed out that when translating spoken words such as a contracted sound and a double consonant of Japanese language into written words can be mistaken easily in the practical education for children with development disability. In this research, we focus on auditory perception of the children, examine the characteristic of phoneme and syllable of Japanese and develop the teaching technique on "Correct Written Words" focusing on audiological perception.

- 10. Research on the Special Educational Support of Autistic Disorders and Emotional Disturbances in Elementary and Junior High Schools. 2007
 - From the survey of the special support classes and the resource rooms -

Research Representative **Hiroki Sasamori** (Senior Chief Researcher, Department of Educational Support Research) Research Partaker Yumiko Hirose**

◆Specialization/Area: Emotional Disturbance

Resource rooms classify autistic disorders as developmental disorders and emotional disturbances as psychological factors. In this research, analyzing the kind of disabilities, intellectual levels and curriculums of school children in special classes (classes for special needs education) and resource rooms, and studying the special needs education of autistic disorders and emotional disturbances in elementary and junior high schools.

Research

NISE

|課題別研究

11. 障害のある子どものための情報関連支援機器等の活用を促進するための教員用映像 マニュアル作成に関する研究 (平成19年度~20年度)

> 研究代表者 中村 均(教育研修情報部 部長兼 上席総括研究員) 所内研究分担者 渡邉正裕**·棟方哲弥·渡邉 章·太田容次

◆その他(情報教育)

障害のある子どもの教育に情報関連支援機器等を利用するのが有効であることは、先行実践例等から知 られています。しかし、視覚障害・聴覚障害の特別支援学校を除けば、十分に活用されていない学校が少 なくないようですし、今利用が盛んな学校であっても、支援機器等に関して意識の高い一部の教員が異動 してしまうと、その学校ではいつの間にか下火になる実態があるようです。これには次のような理由が考 えられます。

- ①機器等を導入したいが、どのようなものがあるのか分からない。
- ②機器等を導入したいが、どのようなものが適切なのか分からない。
- ③機器等は導入されているが、効果的な活用方法が分からない。

これらの課題に対応するため、本研究では、どのような支援機器等があって、どのように活用できるの かという情報を、Webサイトを通して動画像で提供できるようにすることをめざします。

12. 地域の支援をすすめる教育相談の在り方に関する実際的研究(そのⅡ)

-関係機関と協働して行う総合的な支援体制の構築-

(平成19年度~20年度)

研究代表者 後上 鐵夫(教育相談部部長兼 上席総括研究員) 所内研究分担者 大柴文枝*·大崎博史*·小林倫代·笹森洋樹·藤井茂樹·小澤至賢

◆障害種別:教育相談

本研究では、各地で行われている教育相談についての課題を把握し、その内容を整理・分析することに よって、①地域の特性を活かした関係諸領域と連携した相談支援体制(モデル案)の収集、②コンサルテ ーションにかかる教育環境全般を含めたアセスメント法の開発、③教育相談・コンサルテーション事例の 収集、④収集事例の整理と内容面の検討をもとにデータベースの試作をおこないます。

この研究の成果をもとに地域の教育相談機関(教育センター等)と連携しながら、教育相談担当者実践 協議会を開催します。

13. 盲ろう教育における教員の専門性向上のための研究

(平成19年度~20年度)

研究代表者 中澤 惠江(教育支援研究部 総括研究員)

◆障害種別: 盲ろう

日本には、盲ろう教育を担当する教員のための研修プログラムがありません。その必要性は「21世紀 の特殊教育のあり方(最終報告)」に明記されています。本研究では、盲ろう教育に携わる教員の専門性 向上を支えるに必要な次の研究を行います:研修教材の開発研究、CHARGE症候群についての研修ニー ズ調査、盲ろうインターナショナル世界会議での成果発表と最新情報の収集、県と連携できるモデル講習 会の開発です。

※は研究副代表

■Research in Specific Areas

11. Research on Assistive Technology for Children with Disabilities and Development of a Video Guide to Assistive Technology Devices 2007-2008

Research Representative Hitoshi Nakamura (Director General and Research Director, Department for Teacher Training and Information) Research Partaker Masahiro Watanabe*, Tetsuya Munekata, Akira Watanabe, Hirotsugu Ota

◆Non Category

Effectiveness of assistive technology for children with disabilities is now being understood widely in special needs education. In some schools, however, few assistive technology devices are provided, for the teachers have little knowledge and experience of those; in some schools, many are provided but infrequently used, because The leading teachers on this field have been transferred to the other schools; in schools for the blind and the deaf, meanwhile, assistive technology is generally used. The purposes of this study are to investigate the actual conditions of assistive technology in schools for special needs education, to develop a video guide to assistive technology devices, to which teachers may consult, and to release the guide on the Web-site of NISE.

12. A Practical Study on the State of Educational Consultation to Support the Area-Focusing on the Method of Consultation and Assessment II 2007-2008

Research Representative Tetsuo Gogami (Director General and Research Director, Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs)

Research Partaker Fumie Oshiba*, Hiroshi Osaki*, Michiyo Kobayashi, Hiroki Sasamori, Shigeki Fujii, Michimasa Ozawa

◆Specialization/Area : Guidance and Consultation

In this study, grasping problems about education consultation performed in each place and arranging the contents and analyzing them, the following acts are performed;

- (1) collecting consultation support systems (a model idea) which cooperated with related various areas where characteristic in region was made the best use of,
- (2) developing the assessment method that included the whole education environment to lay consultation,
- (3) collecting education consultation and consultation examples,
- (4) rearranging the collection examples and making the database based on examination of the contents side for trial purposes,

"Council of practice education consultation" is held by cooperating with local education consultation organs (education center) based on the result of this study.

13. Research on Staff Development in Deafblind Education 2007-2008

Research Representative Megue Nakazawa (Senior Chief Researcher, Department of Educational Support Research)

♦Specialization/Area : Deafblindness

Currently, there is no in-service training program for teachers involved in deafblind education. The necessity to promote staff development in this area was explicitly stated in the "Final Report: New Perspectives of Special Education in the 21st Century." The following research, considered necessary for staff development, will be carried out: development of training materials, investigation of staff development needs concerning CHARGE syndrome, presentation of research result and exchange of latest information at the Deafblind International World Conference, and the development of a model program with the collaboration of prefectural education center.

Research

NISE

|課題別研究

14. 障害のある子どもの教育に応用できる脳科学に関する研究

(平成19年度~20年度)

研究代表者 西牧 謙 吾(教育支援研究部 上席総括研究員) 所内研究分担者 渥美義賢*・大内 進・笹本 健・原田公人・當島茂登・小田侯朗・金子 健 渡辺哲也・海津亜希子・玉木宗久

◆その他(脳科学)

脳科学は特別支援教育の各分野に大きな影響を及ぼす可能性を持っています。学習メカニズム、知覚・ 認知メカニズム、コミュニケーション能力など、脳機能に関する知見に基づき、脳機能障害の解明と脳機 能に障害のある子どもの社会参加を目指す教育を推進するための研究を行います。

l調査研究

研究活動や研修活動などに資するため、プロジェクト研究や課題別研究のほか、障害のある子ども の教育の現状や動向に関し、基礎的なデータを収集することとして、教育現場等のニーズの優先度 に即しつつ、必要に応じて調査研究を実施しています。

詳しくは研究所ホームページをご覧ください。 http://www.nise.go.jp/

■共同研究

平成19年5月31日現在

共同研究は、本研究所において実施されている実際的・総合的研究と大学や大学共同利用機関 医療・福祉機関等において実施されている基礎的・理論的な研究を融合し、障害のある子どもや特別 な教育的ニーズのある子どもの教育に関する研究の充実に資することを目的として位置付けを明確に し強化した取り組みです。外部機関との共同研究の実施によって、実践的な研究、より効果的な研究 成果の向上を図るとともに基礎的研究と実践的研究との有機的な連携を促進することが期待されます。

1. 全盲児童の図形表象の評価に関する研究

(平成18年度~19年度)

研究代表者 大 内 進(企画部 上席総括研究員) 所内研究分担者 金子 健 共同研究機関 東京工芸大学

全盲児が、2次元画像を使いこなすためには、画像を触覚的に認知するとともに認知した画像をできる だけ正確に表現できる力を育てていくことが不可欠です。

しかし、現状では、視覚に障害がある児童生徒は自分が描いた図形の形状や大きさが正しく表されてい るかどうかを自身で判断することは困難です。

本研究では、光情報工学分野と連携して、全盲児童図形模写活動における模写図形の形状や大きさを定量的 に測定し、全盲児が描いた図の形や大きさを測定し盲児自身が描画の結果を自己評価できるシステムを開発します。

2. 障害のある子どもの脳機能計測技術の開発的研究

(平成19年度~21年度)

研究代表者 西牧 謙吾(教育支援研究部 上席総括研究員) 所内研究分担者 渥美義賢・渡辺哲也・玉木宗久・海津亜希子・亀野節子 共同研究機関 独立行政法人国立病院機構 久里浜アルコール症センター

本研究では、非侵襲的脳機能検査であるNIRS、MRI計測技術を習得し、研究所で蓄積してきた心 理教育的データのある子どもを対象に、障害に関連する脳機能の解明を目指した予備的研究を行うととも に、そのような脳機能障害のメカニズムを踏まえた指導内容・方法の検討を行います。

※は研究副代表

Research in Specific Areas

14. Research on Brain Science and Education for Children with Disabilities 2007-2008

Research Representative Kengo Nishimaki (Research Director, Department of Educational Support Research) Research Partaker Yoshikata Atsumi^{**}, Susumu Oouchi, Ken Sasamoto, Kimito Harada, Shigeto Toushima, Yoshiaki Oda, Ken Kaneko, Tetsuya Watanabe, Akiko Kaizu, Munehisa Tamaki

◆Non Category

Brain science has a potential to impact every aspect of special needs education. This study aims at making the cause of brain function disorder clear and contributing to education that promote social participation of children with disorder in brain function based on the knowledge of brain function such as learning mechanism, perception/cognition mechanism, communication ability and others.

■Survey and Investigation Projects

According to the high priority issues in schools, NISE conducts survey and investigation projects in addition to "High Priority Research Project" or "Research in Specific Areas" and collects information on the current state and trends in special education, aiming to support other NISE research activities and training programs if necessary.

For more information, please visit our website at http://www.nise.go.ip/

Collaborative Research

May 31, 2007

The NISE's Collaborative Research Project, established in 2005, aims to contribute to the improvement of education for students with disabilities or special educational needs. It is highly expected that we can achieve our goals more effectively by building tight collaboration between two types of research, NISE's practical research and Universities' academic research. We also collaborate with institutions of other fields such as medical, welfare, engineering etc. We are currently conducting six collaborative researches in this year.

1. A Study on Evaluation of Figure Drawing by Children with Visual Important and Blindness 2006-2007

Research Representative **Susumu Oouchi** (Research Director, Department of Policy and Planning) Collaborative Research Institute Tokyo Polytechnic University

To develop blind children's ability to reproduce exactly the perceived image as the same time as perceive it tactually, it is necessary for them to command two-dimensional images.

However, it is difficult for them to judge the size and shapes of images they draws. This research is to collaborate with optical information engineering and develop the self-evaluated system which can measure the size and shapes of the images the blind children draws.

2. Study on Development of Non-Invasive Imaging Techniques of the Brain Function for Children with Disabilities 2007-2009

Research Representative Kengo Nishimaki (Research Director, Department of Educational Support Research) Research Partaker Yoshikata Atsumi, Tetsuya Watanabe, Munehisa Tamaki, Akiko Kaizu, Setsuko Kameno Collaborative Research Institute National Hospital Organization Kurihama Alcoholism Center

Based on psycho-educational data which we have accumulated, learning NIRS and MRI measurement which is non-invasive brain functional inspection technology, we conduct preliminary study to reveal the brain function related to disabilities using functional imaging techniques. We seek effective programs for children with disabilities based on the brain science.

■共同研究

3. 地域における障害のある子どもの総合的な教育支援体制の構築に関する実際的研究 (平成19年度)

研究代表者 小澤 至賢(教育相談部 主任研究員)

所内研究分担者 西牧謙吾・後上鐵夫・小林倫代・當島茂登・久保山茂樹・滝川国芳・大柴文枝 齊藤由美子・伊藤由美・植木田潤・亀野節子

共同研究機関 横須賀市・神奈川県立保健福祉大学

全国で初めて中核市として児童相談所を設置する横須賀市役所、同市にある県立保健福祉大学と共同研究体制を構築し、中核市レベルでネットワーク作りに必要な連携方策を実証的に研究します。

4. 構音障害のある子どもが自ら学べる動画教材と配信技術の開発 (平成19年度~20年度)

研究代表者 久保山 茂樹 (教育支援研究部 主任研究員)

所内研究分担者 小林倫代

共同研究機関 独立行政法人理化学研究所

本研究では、構音練習を効果的に行うために、わかりやすい動画教材の開発と、必要な教材を必要な時にインターネットから入手できる技術の開発を行います。言語障害のある子どもや保護者、ことばの教室の先生が楽しく学べる教材作成をめざします。

5. 高等教育機関における発達障害のある学生の支援に関する研究

-評価法の開発と教職員への啓発-

(平成19年度~20年度)

研究代表者 原田 公人(教育支援研究部 総括研究員) 所内研究分担者 笹本 健・徳永 豊・渡辺哲也・太田容次 共同研究機関 独立行政法人日本学生支援機構

本研究では、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)と共同して、発達障害のある学生に対する支援内容・方法を教職員と検討するとともに、支援の評価法について研究し、支援の目標・評価チェックリストを作成します。また、共同のセミナーを開催します。

6. 病気のある児童生徒等への無線通信網とICT機器を活用した情報ネットワークによる 授業形態に関する実証的研究 (平成19年度~20年度)

> 研究代表者 滝川国芳(教育支援研究部 主任研究員) 所内研究分担者 西牧謙吾・太田容次 共同研究機関 株式会社ウェストフィールド

病弱部門をもつ特別支援学校は、本校のほかに分校や分教室があることが多い。また、身体虚弱の特別支援学級は、小・中学校内の他に小児科病棟内に設置されるなど、病弱教育の場は、地域に点在している。そのため教育活動を進めていく上で、病室内での活動に限定されたり、小集団による授業が行えなかったりするなど、多くの制約を受けることになる。そこで病院内において使用できる無線通信網とICT機器を活用して、無線通信での音声や画像の情報ネットワークによる病弱教育における新しい授業形態や非公開型SNSを使った指導方法等の情報共有を探ることを目的とする。

共同研究については、上記の課題以外にも、本年度中にスタートする新規課題を企画中です。

■科学研究費による研究

科学研究費補助金は、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を格段に発展させることを目的とする独創的・先駆的な研究に対して助成されるものです。19年度は萌芽期の研究から最先端の研究まで10課題(内 新規6、継続 4)を実施します。

詳しくは研究所ホームページをご覧ください。http:www.nise.go.jp/

Research

Collaborative Research

3. A Practical Study on Making Support Network System of Children with Disabilities in Yokosuka City 2007

Research Representative **Michimasa Ozawa** (Chief Researcher, Department of Counseling and Consultation for persons with Special Needs)
Research Partaker Kengo Nishimaki, Tetsuo Gokami, Michiyo Kobayashi, Shigeto Toushima, Shigeki Fujii, Shigeki Kuboyama,
Kuniyoshi Takigawa, Fumie Oshiba, Yumiko Saito, Yumi Ito, Jun Uekida, Setsuko Kameno

Collaborative Research Institute Yokosuka City,

Kanagawa University of Human Services

A Practical Study on making support network system of children with disabilities in Yokosuka City We make a joint study groups between Yokosuka City, Kanagawa University of Human Services and NISE for support network system of children with disabilities.

This study gives the evidences how to make better connection and to collaborate effectively through working together.

4. Development of Animation Teaching Material and Internet Technology which Children with Articulation Disorder are able to learn by themselves 2007-2008

Research Representative **Shigeki Kuboyama** (Chief Researcher, Department of Educational Support Research)

Research Partaker Michiyo Kobayashi Collaborative Research Institute **RIKEN**

Intelligible animation teaching materials and the technology to be able to provide the necessary teaching materials which are available in any time through the Internet are developed for performing an articulation exercise effectively in this research. This research aims to create the materials that everybody, including the children with speech disorder, their parents and their teachers, is able to learn and teach with fun.

5. Research on the support of students with developmental disorders in higher education 2007-2008 -Development of an evaluation method and enlightenment of faculty and staff-

Research Representative **Kimihito Harada** (Senior Chief researcher, Department of Educational Support Research)

Research Partaker Ken Sasamoto, Yutaka Tokunaga, Tetsuya Watanabe, Hirotsugu Ohta

Collaborative Research Institute Japanese Student Services Organization (JASSO)

In collaboration with Japanese Student Services Organization (JASSO), we will develop some methods on developmental disorders in higher education. Additionally, we will organize seminars for faculty and staff on developmental disorders.

6. Empirical study on teaching-learning systems utilizing wireless communication network and ICT devices for children with health impairments 2007-2008

Research Representative Kuniyoshi Takigawa (Chief Researcher, Department of Education Support Research)

Research Partaker Kengo Nishimaki, Hirotsugu Ota

Collaborative Research Institute WESTFIELD Co., Ltd.

Most schools for special needs education which has department of health impairments, have branch schools besides the main schools. Places of education for children with health impairments are spattered in local areas, for examples, special classes are set up at children's hospitals besides setting up in the schools. Because of those situations, the children have only limited activities in the hospitals, and/or have no opportunity to attend classes in small groups. Therefore, the aim of this study is to share information on new teaching-learning systems through information networking involving graphics and audio by wireless communication and on instructional methods through private SNS by utilizing wireless communication network and ITC devices that are usable in hospitals.

New projects of collaborative research besides the projects above have been continued planning for the current year.

■ Grant-in-Aid for Scientific Research

Grand-in-Aid for Scientific Research awarded to promote creative and pioneering research across a wide spectrum of scientific fields, ranging from the humanities and social science to the natural science.

For more information, please visit our website at http://www.nise.go.jp

研究者一覧

Research Staff

所属		名	前		役職	専門分野	Key Words
	大	内		進	上席総括研究員 (総合企画調整担当)	視覚障害	全盲児の学習指導, 点字および触知覚研究, イタリアの教育
	笹	本		健	上席総括研究員(国際交流担当) (兼)教育支援研究部 上席総括研究員(生涯学習担当)	重度·重複障害	表現と身体運動, ドイツ・イタリアの教育
	藤	本	裕	人	総括研究員 (政策調整担当)	聴覚・言語障害	教育政策, 教育課程・教科指導, 自立活動
企	徳	永		豊	総括研究員 (国際比較担当)	知的障害·肢体不自由	教育課程, コミュニケーションの発達, 英国の教育
	棟	方	哲	弥	総括研究員 (評価担当)	教育工学	アシスティブ・テクノロジー, 教材教具開発, 形成的評価
画	萩	元	良	=	総括研究員 (行財政等担当)	特別支援教育行政	学校制度, 教育課程, 就労支援
	金	子		健	主任研究員	視覚障害	自立活動, 触図作成, 乳幼児支援
部	牧	野	泰	美	主任研究員	聴覚・言語障害	言語指導, 言語獲得, コミュニケーション障害
	德	永	亜剤	希雄	主任研究員	肢体不自由	自立活動, 国際生活機能分類(ICF), 同児童青年期バージョン(ICF-CY)
	海	津	亜ネ	养子	研究員	学習障害	アセスメント, 学習指導, 個別の指導計画
	内	田	俊	行	研究員	発達障害	自閉症, 自立活動, 学校支援
	千	田	耕	基	上席総括研究員 (特別支援学校教育支援担当)・ (兼)部長	視覚障害	障害児の視機能評価, 教育相談, 視覚障害者支援
	渥	美	義	賢	上席総括研究員 (小中学校等教育支援担当)	情緒障害	自閉症, 診断と評価, 脳科学
	西	牧	謙	吾	上席総括研究員 (医療·福祉連携担当)	病弱虚弱	地域支援, 公衆衛生, 小児科学
教	原	田	公	人	総括研究員 (移行·高等教育支援担当)	聴覚障害	聴覚学習, 乳幼児教育相談, 幼稚部教育
育支	田	中	良	広	総括研究員 (視覚障害担当)	視覚障害	教育相談, 自立活動, 教科指導
援	廣	瀬	由美	€子	総括研究員 (知的障害·自閉症担当)	情緒障害	自閉症, 自立活動, 教師支援
研究	澤	田	真	弓	総括研究員 (視覚障害担当)	視覚障害	自立活動, 教科指導, 点字指導
部	小	田	侯	朗	総括研究員 (聴覚障害担当)	聴覚障害	言語指導, 聲研究, 手話研究
	木	村	宣	孝	総括研究員 (知的障害·自閉症担当)	知的障害	自閉症, 教育課程, チームマネジメント
	當	島	茂	登	総括研究員 (福祉·肢体不自由担当)	肢体不自由	自立活動, 授業研究, ムーブメント教育
	藤	井	茂	樹	総括研究員 (医療·病弱担当)	発達障害	地域支援, 学校支援

所属	:	名	前		役 職	専門分野	Key Words
	中	澤	惠	江	総括研究員 (低発生·感覚系重複担当) (兼)企画部総括研究員(国際比較担当)	重複障害	盲ろう教育, コミュニケーションの発達, 家族・専門家ネットワークづくり
	笹	森	洋	樹	総括研究員 (LD·ADHD等担当)	情緒障害	通級による指導, LD・ADHD・高機能自閉症等, 学校・教師支援
教	久傷	呆山	茂	樹	主任研究員	言語・コミュニケーション 障害	子育て支援, 乳幼児, 地域の支援システム
育支	渡	辺	哲	也	主任研究員	情報工学	視覚障害者支援, 代替・拡大コミュニケーション, ヒューマンインタフェース
援	滝	Ш	国	芳	主任研究員	病弱虚弱教育	教育課程, 学校支援
研究	齊	藤	宇	開	研究員	知的障害	自閉症, 個別の教育支援計画, 地域生活支援
部	玉	木	宗	久	研究員	情緒障害	自閉症, ADHD・LD, 教育と脳科学
	涌	井		恵	研究員	発達障害	協同学習, 社会的スキル, 生涯学習
	齊	藤	由美	美子	研究員	重度·重複障害	幼児期の教育支援 セルフ・ディタミネーション
	中	村		均	上席総括研究員 (情報普及担当)·(兼)部長	教育工学	情報教育, コンピュータ利用教育, アシスティブ・テクノロジー
	松	村	勘	由	総括研究員 (研修企画担当)	聴覚·言語障害	通級による指導, 関係障害, コミュニケーション障害
教育	渡	邉		章	総括研究員 (教育情報担当)	情報教育	コミュニケーション支援, 教育課程
研修情	太	田	容	次	主任研究員	情報教育	情報活用能力, アシスティブ・テクノロジー, 地域連携
報部	横	尾		俊	研究員	聴覚障害	教育相談, 言語発達, 聾学校の地域支援
	渡	邉	正	裕	研究員	教育工学	個別の指導計画, 教材教具開発, 利用者インタフェース
	柳	澤	亜ネ	希子	研究員	発達障害	きょうだい支援, 個別家族支援計画 (IFSP), 障害理解教育
	後	上	鐵	夫	上席総括研究員 (教育相談担当)·(兼)部長	言語障害	重度·重複障害, 教育相談(地域支援), 保護者支援
教	小	林	倫	代	総括研究員 (相談連携・普及担当)	言語・コミュニケーション 障害	地域支援システム, 保護者支援,
育相談	大	柴	文	枝	主任研究員	情緒障害	高機能自閉症・アスペルガー障害, 教育相談, カウンセリング
部	小	澤	至	賢	主任研究員	重度·重複障害	自閉症, 授業研究
	大	崎	博	史	主任研究員	重度·重複障害	訪問教育, 医療的ケア, 中華人民共和国の教育

■特任研究員		
名 前	所属	役 職
小 塩 允 護	愛知淑徳大学 文学部	教 授
加藤忠明	国立成育医療センター研究所・成育政策科学研究部	研究部長

Research Staff

研究者一覧

NISE

Affili- ation	Name	Position	Specialized Field	Key Words	
	Susumu Oouchi	Research Director (General Planning and Coordination)	Visual Impairments	Educational Guidance for Blind Children Studies of Braille and Haptic Perception Education in Italy	
	Ken Sasamoto	Research Director (International Exchange) Research Director Dept of Educational Support Research (Lifelong learning)	Profound and Multiple Disabilities	Activities to Promote Independence Body Action as Expression Education in Germany, Italy	
	Hiroto Fujimoto	Senior Chief Researcher (Policy and Coordinator)	Speech and Hearing Handicaps	Policy of Education for Children with Disabilities Course Instruction Activities to Promote Independence	
Depart	Yutaka Tokunaga	Senior Chief Researcher (International Comparison)	Intellectual Disabilities and Physical/Motor Disabilities	Curriculum Development of Communication Education in England	
Department of policy	Tetsuya Munekata	Senior Chief Researcher (Evaluation)	Educational Technology	Assistive Technology Educational Materials Formative Evaluation	
policy	Ryoji Hagimoto	Senior Chief Researcher (Administration and Finance)	Administration on Special Support Education	School System Curriculum Employment Support	
and	Takeshi Kaneko	Chief Researcher	Visual Impairments	Activities to Promote Independence Tactile Graphics Support for Infants	
Planning	Yasumi Makino	Chief Researcher	Speech and Hearing Handicaps	Communication and Language Intervention Language Acquisition Communication Disorders	
	Akio Tokunaga	Chief Researcher	Physical/Motor Disabilities	Activities to Promote Independence ICF(International Classification of Functioning, Disabilities and Health) ICF-CY	
	Akiko Kaizu	Researcher	Learning Disabilities	Assessment Learning Metod Individualized Education	
	Toshiyuki Uchida	Researcher	Developmental Disorders	Autism Activities to Promote Independence School Support	
	Kouki Chida	Research Director (Special Needs Education) Department Head	Visual Impairments	Functional Vision Assessment of Children with Disabilities Guidance and Counseling Support for Person with Visual Impairments	
	Yoshikata Astumi	Research Director (Education in Ordinary School)	Emotional Disturbance	Research Director Autism Diagnosis and Assessment Neuroscience	
Depart	Kengo Nishimaki	Research Director (Medical and Welfare Coordinator)	Health Impairments	Social Support Public Health Pediatrics	
ment	Kimito Harada	Senior Chief Researcher (Transition and Higher Education)	Deaf and Hard of Hearing	Guidance and Counseling for Infants and toddlers Education for Kindergarten	
of Educ	Yoshihiro Tanaka	Senior Chief Researcher (Visual Impairment)	Visual Impairments	Guidance and Counseling Activities to Promote Independence Braille Teaching	
cationa	Yumiko Hirose	Senior Chief Researcher (Intellectual Disabilities and Autism)	Emotional Disturbance	Autism Activities to Promote Independence Teacher Support	
Suppo	Mayumi Sawada	Senior Chief Researcher (Visual Impairment)	Visual Impairments	Activities to Promote Independence Course Instruction Braille Teaching	
Educational Support Research	Yoshiaki Oda	Senior Chief Researcher (Hearing Impairment)	Deaf and Hard of Hearing	Communication and Language Intervention Deaf Studies Sign Language Studies	
earch	Nobutaka Kimura	Nobutaka Kimura Senior Chief Researcher (Intellectual Disabilities and Autism) Intellectual		Autism Curriculum School Support	
	Shigeto Toushima	Senior Chief Researcher (Physical/motor Disabilities and Welfare)	Physical/Motor Disabilities	Activities to Promote Independence Research on Teaching Movement Education	
	Shigeki Fujii	Senior Chief Researcher (Health Impairments and Medicine)	Developmental Disorders	Social Support School Support	

Affili- ation	Name	Position	Specialized Field	Key Words
	Megue Nakazawa	Senior Chief Researcher (Rare and Multiple Sensory Disabilities)	Multiple Disabilities	Deafblind Education Development of Communication Networking Families and Professionals
Department of Edu	Hiroki Sasamori	Senior Chief Researche (LD and ADHD)	Emotional Disturbance	Resource Rooms LD•ADHD Teacher Support
	Shigeki Kuboyama	Chief Researcher	Communication Disorders	Child Care Support Infants and toddlers Social Support System
	Tetsuya Watanabe	Chief Researcher	Information Technology	Support for Person with Visual Impairments Augmentative and Alternative Communication Human Interface
cationa	Kuniyoshi Takigawa	Chief Researcher	Education for Health Impairments	Curriculum School Support
d Supp	Ukai Saito	Researcher	Intellectual Disabilities	Autism Individual Teaching Plan Community Life Support
Educational Support Research	Munehisa Tamaki	Researcher	Emotional Disturbance	Autism Attention Deficit/Hyperactive Disorder Education and Neuroscience
earch	Megumi Wakui	Researcher	Developmental Disorders	Cooperative Learning Social Skills Training Lifelong Learning
	Yumiko Saito	Researcher	Profound and Multiple Disabilities	Childhood Educational Support Self-determination
	Hitoshi Nakamura	Research Director (Information Resources and Technology) Department Head	Educational Technology	Information Technology and Education Computing Education Assistive Technology
Depa and I	Kanyu Matsumura	Senior Chief Researcher (Planning of Training Courses)	Speech and Hearing Handicaps	Resource Room Communication Disorders
Department of Teacher Training and Information	Akira Watanabe	Senior Chief Researcher (Educational Information Resources)	Information Technology and Education	Communication Support Curriculum
of Teac	Hirotsugu Ota	Chief Researcher	Information Technology and Education	Assistive Technology
her Tra	Shun Yokoo	Researcher	Deaf and Hard of Hearing	Guidance and Counseling Language Development Outreach Program of Deaf School
gining	Masahiro Watanabe	Researcher	Information Technology for Education	Individual Teaching Plan Educational Materials User Interface
	Akiko Yanagisawa	Researcher	Developmental Disorders	Support for Siblings Living Persons with Disorder Individual Family Support Progran (IFSP) Education for Understanding Disorders
Departr for Pers	Tetsuo Gokami	Research Director (Counseling and Consuitation) Department Head	Speech and Language Disorders	Profound and Multiple Disabilities Educational Counseling (Social Support) Family Support
nent of Co	Michiyo Kobayashi	Senior Chief Researcher (Consultation Support)	Communication Disorders	Family Support Social Support System
Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs	Fumie Oshiba	Chief Researcher	Emotional Disturbance	High-Functioning Autism and Asperger's Disorder Educational Counseling Counseling
and Consu	Michimasa Ozawa	Chief Researcher	Profound and Multiple Disabilities	Educational Counseling Autism Study of Teaching-Learning Press
ultation	Hirofumi Osaki	Chief Researcher	Profound and Multiple Disabilities	Home/Hospital-Bound Education Education in China

■ Special-Appointment Researcher				
Name	Affiliation	Title		
Chikamori Oshio	Professor			
Tadaaki Kato	Department head			

研修

■平成19年度研修事業一覧

ł	研修名		期間	募集人員	
特別支援教育研	究 研 修 員 制 度	1年間	平成19年4月16日(月) ~平成20年3月14日(金)	各研究毎に 受入人員を 定める	
	視覚障害教育コース				
	聴覚障害教育コース		平成19年5月7日(月)	100名	
特別支援教育	言語障害教育コース	2ヶ月間	~平成19年7月6日(金)	100-11	
専門研修	自閉症・情緒障害教育コース	27 / J FJ			
	知的障害教育コース		平成20年1月9日(水)	100名	
	肢体不自由・病弱教育コース		~平成20年3月13日(木)	100-1	
政策課題の推進を図	るための指導者研修			160名	
特別支援教育コー	ディネーター指導者研究協議会	3日間	平成19年9月26日(水) ~平成19年9月28日(金)	(60名)	
交流及び共同学習	び共同学習推進指導者研修		平成19年10月4日(木) ~平成19年10月5日(金)	(100名)	
教育現場の喫緊の課	題の解決を図るための指導者研修	*		100名	
自閉症教育推進指	導者研修	2週間	平成19年10月15日(月) ~平成19年11月9日(金)	(50名)	
LD·ADHD·高機f		4週間	平成19年11月19日(月) ~平成19年11月30日(金)	(50名)	
教職員の指導力の向上を図るための指導者研修					
特別支援学校寄宿	舎指導員指導者講習会	2日間	平成19年7月26日(木) ~平成19年7月27日(金)	(100名)	
情報手段活用によ	る教育的支援指導者研修	2週間	平成19年9月3日(月) ~平成19年9月14日(金)	(50名)	



写真:宿泊棟外観、食堂







In-Service Teacher Training

■ List of Training Programme, 2007

	Program		Term		
Associate researcher	system	1 year	ear 16 Apr, 2007~ 14 Mar, 2008		
	Education for children with visual impairments				
	Education for children with deaf and hard of hearing		7 May, 2007~	100	
Leader training for	Education for children with speech disorder	2 months	6 Jul, 2007	100	
teachers on special needs education	Education for children with autism and emotional disturbance	2 months			
	Education for children with intellectual disabilities		9 Jan, 2008~	100	
	Education for children with motor disabilities/health impairments		13 Mar, 2008	100	
				160	
Conference on coordinator	special needs education	3 days	26 Sep, 2007~ 28 Sep, 2007	(60)	
Leader training education	for teachers on inclusive	2 days	4 Oct, 2007~ 5 Oct, 2007	(100)	
				100	
Leader training children with auti	for teachers on education of	2 weeks	15 Oct, 2007~ 9 Oct, 2007	(50)	
	eachers in education of children with is, Attention-Deficit/Hyperactivity unctioning Autism	4 weeks	19 Nov, 2007~ 30 Nov, 2007	(50)	
Workshops for leader of dormitory staff of school for special needs education 2 days 26 Jul, 2007~ 27 Jul, 200			26 Jul, 2007~ 27 Jul, 2007	(100)	
	or teachers on information and chnology in special education	2 weeks	3 Sep, 2007~ 14 Sep, 2007	(50)	





写真上:多様な講議・演習風景 写真下:グループによる研究成果発表、ポスターによる研究成果発表







34 National Institute of Special Needs Education 35

研修

■各都道府県等における特別支援教育施策や教育研究 及び教育実践等の推進に寄与する指導者養成に資する研修

本研究所では、昭和47年から研修事業を開始して以来、現在までに1年間の研修では約930名、2ヶ月 間程度の研修は約7,000名、その他の研修は約6,800名が修了しており、その大多数の方が各学校現場や教 育行政機関等で活躍しています。研修事業は、以下のとおり、1年を通して行う特別支援教育研究研修員 制度、2ヶ月程度で行う特別支援教育専門研修をはじめ数日間の日程で行う各種の研修を1年間を通じて 実施しており、研究所内で行う研修は、原則、所内の宿泊施設(研修員宿泊棟)に宿泊して研修すること になっています。

研修事業は、特別支援学校、小・中学校等の教育職員や都道府県・政令指定都市教育委員会の特別支援 教育担当指導主事等を対象に、本研究所の研究成果等を踏まえて、障害のある子どもの教育に関する専門 的知識の深化、指導力の向上を図る一定期間の現職研修を実施し、各都道府県等における指導者養成の一 翼を担っています。







■情報通信技術を活用した研修コンテンツの提供

各都道府県等の特別支援教育センター等における教職員の研修に資するため、研究所で開催した各研修 での研究職員等によるより専門性の高い内容や喫緊の課題などの講義の一部を録画収録して、インターネ ットを利用して研究所Webサイトから配信しています。

(平成19年4月現在、配信講義:71タイトル)

◆利用方法◆

特別支援教育センター等にかかわらず学校内の研修でも利用可能で、利用機関の担当者から当 研究所宛メールにより、利用希望を申請することにより、折り返し視聴用ID及びパスワードを 配布し、利用することができる仕組みとなっています。

なお、視聴に当たっては、インターネット接続環境(500kbps以上推奨)とパソコン (Windows98SE以降)、Webブラウザ Internet Explorer Ver5.5以降、動画表示ソフトとして Windows Media PlayerVer6.4以降又はReal One Playerが必要ですが、インターネット接続環境 にない場合、収録DVDを貸し出すことも行っていますので、お問い合わせください。

●受付・問い合わせ用E-mail: v-haisin@nise.go.jp

●担当 (研修全般) :研修情報課研修係

● 〃 (システム関係):研修情報課情報管理係

In-Service Teacher Training

■The Training to Improve Leaders for Special Needs Education Policy, **Education Research and Educational Practices in each Prefecture**

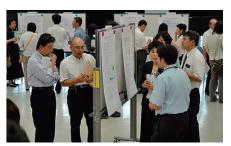
This institute offers the leader training in special needs education for 1 year and for 2 months, and also workshops for 2 days to 4 weeks. Most of these people are actively engaged in special needs education at schools, educational agencies and organizations.

Since the commencement of training programs in 1972, the National Institute of Special Needs Education has trained approximately 930 teachers in long-term programs, and 7,000 in short-term programs, and 6,800 in workshops.



Lectures, April 2007)





NISE

■Providing the Training Contents Using ICT

NISE videotapes lectures of a high order from its training curriculum and provides them over the internet. This program is intended to support teacher training at special needs education centers of prefectures. (71



National Institute of Special Needs Education National Institute of Special Needs Education

教育相談

特別支援教育のナショナルセンターとして担う教育相談事業

- ・臨床研究としての教育相談、発生頻度の低い障害児者への教育的支援、 各都道府県等から要請を受けた教育相談をします。
- ・国外に在住する障害児者の保護者への教育相談や日本人学校等教員への 支援をします。



各都道府県等における教育相談実施機関支援事業

- ・障害児者へ支援を行うための総合的なアセスメント、および教育相談に関するコンサルテーションを 実施します。
- ・ガイドブックやマニュアル等の作成による教育相談に関する情報提供をします。







■教育相談に関する研究事業

・各都道府県等の教育相談機関や関係の大学等と共同し、各地域において質の高い一貫した教育相談を 実施するために、「方法・体制作りの研究」、「総合的なアセスメント等に関する研究」、「発達障害や 発生頻度の低い障害への相談支援に関する研究」を実施します。



問い合わせ先:独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 教育相談部

〒239-8585 横須賀市野比5丁目1番1号

電 話:046-839-6885 FAX: 046 - 839 - 6906

E-mail: wsodan@nise.go.jp

*詳しくは、下記研究所ホームページの教育相談のページをご覧ください。 http://www.nise.go.jp

Counseling and Consultation for Persons with Special Needs

Individual Counseling and Consultation for Persons with Special Needs Services that National Center for Special Needs Education is Expected to Handle

- · Counseling and consultation for persons with special needs as a field of clinical research, counseling and consultation with special needs services for persons with rare disabilities or for cases referred from prefectures.
- · Counseling and consultation for persons with special needs for caregivers of disabled persons living overseas or enrolled in schools for overseas Japanese nationals.



NISE

Support Services for Counseling and Consultation for Persons with Special Needs Agencies at the Prefectural Level



- · Comprehensive assessment for the support of persons with disabilities, as well as consultation pertaining to counseling and consultation for persons with special needs.
- · Provision of information concerning counseling and consultation for persons with special needs through the publication of guidebooks and manuals.

Research on Counseling and Consultation for Persons with Special Needs

· Working with counseling and consultation for persons with special needs agencies, concerned universities, and other organizations, the Department engages in "research on the development of method and system," "research on comprehensive assessment," and "research on counseling support for developmental disabilities and rare disabilities." These approaches are intended to ensure high-quality and consistent counseling and consultation for persons with special needs in all parts of the country.



Inquiries: Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs, National Institute of Special Needs Education

5-1-1 Nobi, Yokosuka-city, 239-8585

Tel: +81-46-839-6885 Fax: +81-46-839-6906

E-mail: wsodan@nise.go.jp

*For more information, please visit the counseling and consultation for persons with special needs page of the NISE website:

http://www.nise.go.jp



National Institute of Special Needs Education National Institute of Special Needs Education 39

本研究所では、広く特別支援教育の発展に寄与することを目的として、全国の特別支援教 育センター、関係教育研究機関等と連携して特別支援教育に関する図書その他の資料及び情 報を収集し、整理及び保存し、提供しています。

■国立特別支援教育総合研究所セミナー

我が国の特別支援教育研究の動向や最新研究の普及、及び今日的課題や今後進むべき方向を探るとと もに、開かれた機関として本研究所の諸活動の理解啓発を図ることを目的として、「国立特別支援教育総 合研究所セミナー」を開催しています。セミナーは、特別支援教育の研究者・専門家・教員等の参加を 得て、障害のある子どもの教育内容・方法・技術等の諸問題について、広く情報交流の場を設けること とし、年2回開催します。

◆国立特別支援教育総合研究所セミナー I

特別支援教育研究の動向や最新研究の普及、あるいは今日的課題や今後進むべき方向を探るため、 著名な研究者、専門家及び本研究所職員など特別支援教育関係者による講演、研究発表、パネルディ

スカッション、参加者との研究協議等を行います。 期日 平成20年1月24日~25日の2日間

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター〈東京都〉



本研究所が実施している研究内容とその成果を普及し、各学 校等の指導の場で役立てていただくため、プロジェクト研究等 の研究成果発表及び研究協議を行います。

期日 平成20年2月19日の1日間

国立オリンピック記念青少年総合センター〈東京都〉



■研究所Webサイト(http://www.nise.go.jp)

研究所Webサイトにより、特別支援教育関係文献目録等のデータベースなどをはじめ、障害のあ る子どもの教育に関する情報を総合的に提供しています。

◆ポータルサイト「障害のある子どもの教育の広場」

利用者のニーズに対応した各種トピックスを掲載するほか、関係機関等へリンクできるようにして おり、特に、「障害のある子どもの教育について学ぶ」コーナーでは、各障害のことなどについて理 解してもらうとともに指導方法等について説明し、教職員の学習や研修をサポートするほか、広く一 般に障害のある子どもの教育の理解を深めていただく内容としております。

◆e-ラーニング

各都道府県等の特別支援教育センター等における研修を支 援することとして専門性の高い内容や喫緊の課題などの講義 をインターネットにより配信しており、e-ラーニング体制の構 築を進めています。

◆ウェブ・アクセシビリティ支援ツール(視覚障害者のための 読み上げソフト等)

平成17年度より、アクセシビ リティ向上を目的として、ウェ ブ・アクセシビリティ支援ツー ル(視覚障害者のための読み上 げソフト等)を導入しています。 このほか、携帯電話用のサイ トでも情報提供を行っています。



ポータルサイト 「障害のある子どもの教育の広場」



アクセシビリティ支援ツールを使用した 研究所Webページ

Information Services

NISE collects, arranges, stores, and supplies books, materials, and information on special needs education in collaboration with prefectural special needs education centers and related educational research institutions throughout Japan in order to contribute the development of this field.

■ National Institute of Special Needs Education Seminars

We hold the following national special needs education seminar twice a year. The purposes are to disseminate latest researches about special needs education, to explore today's theme or the way we should go, to get understanding about activities of our institute people and to have a place to exchange information about educational contents, methods and technology by researchers, experts and teachers.

◆National Institute of Special Needs Education Seminar I

The seminar is undertaken for the purpose of exchanging information and outcomes of researches. The seminar is organized to arrange lectures and discussion with experts, staffs of NISE and audiences.

Date: January 24, 25, 2008 (2days)

Place: National Olympics Memorial Youth Center (Metropolis

of Tokyo)

◆National Institute of Special Needs Education Seminar II

The purpose of this seminar is to disseminate outcomes of projects by NISE, to contribute to the development of educational practices and conversely to reflect the needs of schools and teachers to the research activities of NISE.

The seminar consists of discussion session with audiences and staffs.

Date: February 19, 2008 (1day)

Place: National Olympics Memorial Youth Center

(Metropolis of Tokyo)





Framework for Supplying Comprehensive Information for Special Needs Education

- ■NISE's website (http://www.nise.go.jp) supplies comprehensive information on education for children with disabilities. It includes a database of bibliographies and other items related to special needs education.
- ◆The portal site "Shogai no aru Kodomo no Kyouiku no Hiroba" (Education plaza for children with Disabilities) presents a variety of topics that match the needs of site users, with links to other related institutions. In particular, the website's "Shogai no aru Kodomo no Kyouiku nit suite Manabu" (Learning about Education for Children with Disabilities) section explains individual disabilities to increase understanding as well as methods of instruction. It also provides support for teacher education and training while at the same time seeing to enhance general understanding of education for children with disabilities.
- ♦NISE is currently addressing the issue of "e-learning" to reinforce the content of this section. Furthermore, in order to support training at special needs education centers in each of Japan's prefectures, NISE is providing courses on highly specialized content and pressing issues over the Internet. In this way, NISE is moving forward to establish its e-learning frame work.
- NISE's website introduced screen reader software for people with visual disabilities in April 2005. NISE also offers information available over its website for cell phones.

情報普及

Information Services

■蔵書

H19. 4. 1 現在

区分	和書	洋書	点字(和)	点字(洋)	合 計
総記	2,637	394	3		3,034
哲 学	2,553	1,143	9		3,705
歴 史	359	30	13		402
社会科学	18,108	3,781	176		22,065
自然科学	5,260	1,894	66	1	7,221
工 学	735	53		6	794
産業	46	1			47
芸 術	342	17	5		364
語 学	929	322	102		1,353
文 学	328	13	106		447
製本雑誌	11,270	8,612			19,882
合 計	42,567	16,260	480	7	59,314

(備 考) 雑誌種類数

和1,373種 / 洋497種







■データベース

H19. 4. 1 現在

データベース名称等	主な収録項目	収録件数・期間
特別支援教育関係文献目録 (「特殊教育学研究」所載の文献目録)	標題,著者名,発表誌名,発表年月, 主題部門	81,026件 1964. 1~
特別支援教育実践研究課題 (全国の特別支援学校等の研究課題)	標題,著書名,発表誌名,作成機関 名,発表年月,抄録,主題部門	45,540件 1980. 4~
国立特別支援教育総合研究所所蔵目録 (本研究所所蔵の和・洋図書及び雑誌・資料)	書(誌)名,著書名,発行者,発行 年,所蔵情報	図書・資料 42,728件 雑誌等 16,083件 1971.10~

■ Book Collection

2007. 4. 1

Classification	Japanese	Foreign	Braille (Japanese)	Braille (Foreign)	Total
General Works	2,637	394	3		3,034
Philosophy	2,553	1,143	9		3,705
History	359	30	13		402
Social Sciences	18,108	3,781	176		22,065
Natural Sciences	5,260	1,894	66	1	7,221
Technology	735	53		6	794
Industry	46	1			47
The Arts	342	17	5		364
Language	929	322	102		1,353
Literature	328	13	106		447
Boundary	11,270	8,612			19,882
Total	42,567	16,260	480	7	59,314

Periodicals:

Japanese 1,373 / Foreign 497







■ Databases

2007. 4. 1

Database	Entries	Number of Entries Period of Entries
Catalog of Literature on School for Special Needs Education (Research reported in "The Japanese Journal of Special Education")	Titles, authors, names of publications, dates of issues, and subject categories	81,026 1964. 1~
Subjects Database of Applied Researches in Special Needs Education (Subjects studied by school for special needs education)	Titles, authors, names of publications, publishers, dates of issues, summaries, and subject categories	45,540 1980. 4~
Library Catalogue (Japanese and foreign books, periodicals and other materials)	Titles, authors, publishers, dates of publication, and library information	Books and Materials 42,728 Periodicals 16,083 1971. 10~

42 National Institute of Special Needs Education 43

国際交流

国内や海外の大学、研究機関等と連携・協力し、共同研究や国内・国際セミナー、国際協力等を実施して、課題について調査、分析、評価等を行うとともに、アジア・太平洋地域をはじめ諸外国に対し我が国の実践的な研究成果を発信します。

■国際的な情報発信センター - 諸外国の研究機関との連携・協力、交流の推進 -

●国際比較研究

- ・諸外国の障害のある子どもの教育に関する制度等について、調査研究や現地在住の人を対象とした「外 国調査研究協力員制度」等を活用して、情報の収集・分析をし、国際比較研究を行っています。また、得 られた成果は国内外に向けて発信しています。
- ・諸外国の情報収集等のために、国際学会等に研究員を派遣しています。
- ●アジア・太平洋特別支援教育国際セミナーの開催

本研究所は、日本ユネスコ国内委員会との共催により1981年以来、アジア・太平洋諸国における特別 支援教育の発展に資するため、各国ユネスコ国内委員会から推薦された代表者を日本に招聘し、国際セ ミナーを毎年開催しています。

本年は、12月 3日 (月) \sim 6 日 (木) に「地域の社会資源と連携した、特別なニーズのある子どものための学校運営~その工夫と課題~」をテーマとし、開催します。本セミナーでは、先導的立場にある研究者、教員等が一堂に会して、アジア・太平洋地域の障害のある子どもの教育に関する研究、教育実践、行政施策などを発表し協議を行います。

- ●アジア・太平洋地域の特別支援教育に資する、研究所の研究成果等の発信
- ◆NISEニューズレター(英文) ◆Journal of Special Education in the Asia Pacific (JSEAP, 英文)
- ◆世界の特別支援教育 ◆英文紀要(NISE Bulletin)
- ◆Final Report of the Asian and Pacific International Seminar on Education for Individual with Special Needs(英文)
- ●WEBによる国際関係情報の提供
- ◆特別支援教育に関する国際比較 ◆世界の特別支援教育データベース
- ◆諸外国の特別支援教育関係文献目録 ◆各国情報(欧米・アジア・太平洋) ◆国際機関に関する情報

| 国際貢献 - 特別支援教育の発展・充実に向けた国際貢献 -

- ●OECD等の国際機関及び国際協力機構等の政府関係機関への協力
- ・政府の国際協力の一環として、アジア諸国を中心に、諸外国における特別支援教育の発展を支援しています。
- ・政府の要請に基づき、OECD等の国際機関等が行う国際会議、事業等へ研究員を派遣しています。
- ・日本・マレーシア経済連携協定に基づき、マレーシアにおける特別支援教育に関する研究機関の設立の ための研究員等養成研修を実施しています。
- ・国際協力機構(JICA)の要請に基づく、開発途上国研修プログラムへの協力や来日外国人研究者等への専門的知見の提供を行っています。
- ●交流協定に基づくセミナーの開催及び外国人研究者との研究交流

外国の研究機関と交流協定を締結し、共同研究及び研究集会の実施、特別支援教育情報の交換、研究者の交流、また、研究交流のための特別支援教育セミナーを行っています。

- ◆交流協定締結機関
 - 1. 韓国国立特殊教育院(1995年11月締結)
 - ・平成12年度から毎年1回、日韓相互で「日韓特殊教育セミナー(平成19年度から「日韓特別支援教育セミナー」に改称)」を開催。
 - ・平成19年度 第8回日韓特別支援教育セミナー 於 韓国国立特殊教育院
 - 2. ケルン大学人間科学学部 (ドイツ) (1998年11月締結)
 - ・19年度は、ケルン大学から特別研究員を1名受け入れる予定です。

|招聘・派遣 - 研究職員の派遣及び外国人研究者等の受入による研究交流 -

国際学会等への参加及び発表のために研究員を海外に派遣すると共に、外国人研究者を受け入れ、研究 交流を行っています。

◆外国人研究者の受入数

▼ / 「	2003	2004	2005	2006
年度・人数	2003	2004	2005	2006
交流協定に基づく招聘	0	3	0	3
アジア・太平洋特別支援教育国際セミナー への招聘・参加	23	16	12	13
研究交流・研修の受入	6	36	13	33
視察等の受入	59	8	62	79
合計	88	63	87	128

◆研究職員の外国への派遣数

年度・人数	2003	2004	2005	2006
研究所プロジェクト研究・課題別研究	4	2	0	8
科学研究費補助金による研究	22	22	25	18
在外研究員・大学教育国際推進化プログラム	1	2	1	0
国際研究集会派遣研究員	0	4	4	0
交流協定に基づく派遣	_	_	_	2
政府機関からの要請に基づく国際会議等出席	_	_	_	2
その他	5	4	9	3
合計	32	34	39	33

International Exchange

NISE provides practical outcome of research in Japan toward the Asian and Pacific region and many other foreign countries, performing investigation, analyzes, and evaluation result of research projects through international and domestic seminars or collaborative research which cooperated with universities and research institutes.

■International Information Center

-Promotion of cooperation, collaboration and exchange with international research institutes-

●International Comparative Research

- NISE gathers the information, analyzes, and performs the research of international comparison on the systems about the education of children with special needs in various foreign countries, utilizing "member of overseas research cooperation systems" for people of the local living and investigational research.
- NISE dispatches researchers to international academic conferences to collect information from various foreign countries.

● The 27th Asia-Pacific International Seminar on Education for Individuals with Special Needs

NISE and the Japanese National Commission for UNESCO have been hosting international seminars for the development and the improvement of the education for individuals with special needs in the Asian and Pacific region, since 1981, inviting the representative recommended by their National Commission for UNESCO form countries to Japan.

The seminar is hold from December 3 to December 6 this year. The representatives are expected to provide and exchange information concerning the theme, respecting their countries actual situations and hold discussions on the relevant issues

•Publications of the research outcome to contribute special needs education in the Asian and Pacific region

- ◆NISE Newsletter ◆Journal of Special Education in the Asia Pacific(JSEAP)
- ◆Special Needs Education of the World ◆NISE Bulletin
- ◆Final Report of the Asian and Pacific International Seminar on Special Needs Education

Providing information related to international by World Wide Web

- ◆International comparison on special needs education ◆Database of special needs education in the world
- ◆Bibliography of special needs education in overseas ◆Information (Europe, America and the Asian and Pacific Region)
- ◆Information of international organizations

International Contributions -International contribution for development of special needs education-

● Cooperation to International Organizations including the OECD, and Government-affiliated Agencies including Japan International Cooperation Agency (JICA)

- NISE supports the development of special needs education in many foreign countries, centering around Asian nations, as a part of governmental international cooperation
- NISE dispatches researchers in international conferences and other enterprises which international organizations perform, including OECD, based on requests of the Japanese government.
- NISE holds researcher training programs for foundation of research institute, on special needs education in Malaysia, based on Japan-Malaysia Economic Partnership Agreement.
- NISE cooperates to training program for developing countries and provides technical knowledge to visiting foreign researchers, based on requests of Japan International Cooperation Agency (JICA).

• Hosting International Seminar and Research Exchange with Foreign Researchers under the Agreement of Exchange

- NISE has concluded the Agreement on International Collaborative Research Projects, and exchanges information on special needs education, enforces staff exchange and holds international seminars between the research institutes in overseas.
- ◆International Collaboration between Foreign Organizations
- 1. Korea National Institute of Special Needs Education (since November, 1995)
- Annual NISE/KISE Seminar on Special Needs Education since 2001
 The 8th NISE/KISE Seminar on Special Needs Education at KISE (2007)
- 2. The Faculty of Special Needs Education, University of Cologne, Germany (since 1998)
 - Acceptance of a graduate school student from University of Cologne as International exchange graduate school student program (2007)

Invitation and Dispatch -Research interchange by dispatch of the researchers and the invitation of the foreign researchers-

NISE dispatches researchers for participation announcement to the international academic conferences, and accepts the foreign researchers for research interchange.

♦Acceptance of Foreign Researchers

2003 | 2004 | 2005 | 2006 Invitation by International Exchange 0 3 0 Invitation/Participation for Asia-Pacific 23 16 12 16 International Seminar 36 13 33 International research/Collaborative training 6 79 Acceptance of visiting 59 8 62 63 87

♦Number of NISE Staff Traveling Other Countries

	0			
	2003	2004	2005	2006
High Priority Research Projects and Research in Specific Areas	4	2	0	8
Grant-in Aid for International Scientific Program	22	22	25	18
Overseas Research Fellowship	1	2	1	0
Fellowship for (Attendance at) International Conference	0	4	4	0
Interchange Agreement	0	0	0	2
International conferences based on the request from the government office attendance	0	0	0	2
Other	5	4	9	3
Total	32	34	39	33

連携

全国の特別支援学校との連携・協力

本研究所では、全国の特別支援学校や小・中学校などを研究協力機関・研究協力者に委嘱し、研究課題 等に関する情報・資料提供、指導・助言、共同開発・研究、開発した指導法・試作の実践、教材開発など の協力を得ることにより、特別支援教育に関する実際的・実践的な研究の円滑な推進を図っています。

また、平成16年度からは、本研究所と共同で研究することを希望する機関「研究パートナー」を全国か ら募集し、お互いの課題意識や研究方法、研究資源などを共有することにより、教育現場のニーズに対応 した、相互により意義のある研究を推進しています。

◆研究協力機関・研究協力者、研究パートナー件数一覧表/平成18年度

(協力機関内訳)

学校	45機関
大学・研究所	1機関
都道府県・市機関	12機関

(協力者内訳)

学校関係者	47人	
大学関係者・研究者	42人	
都道府県・市関係者	16人	

(研究パートナー)

学校	13
大学・研究所	0
都道府県・市機関	2

|筑波大学附属久里浜特別支援学校との相互協力

◆筑波大学附属久里浜特別支援学校の概要

筑波大学附属久里浜特別支援学校は、昭和48年9月に、国立特別支援教育総合研究所が行う実際的研究 に協力する目的で、重度・重複障害児を対象に教育を行う養護学校として設置された国立久里浜養護学校 を母体として、平成16年4月1日の国立大学等の法人化に伴い、知的障害を併せ有する自閉症児を対象に



教育を行う、幼稚部と小学部を置く養護学校と して設置されました。

同校では、自閉症のある幼児児童に対して、 幼稚園及び小学校に準ずる教育が行われるとと もに、筑波大学における幼児児童の教育に関す る研究の推進や、学生の教育実習の実施等に対 する協力などが行われています。

なお、平成16年7月、本研究所と筑波大学と の間で教育研究交流に係る協定を締結し、本研 究所と同校は、これまでと同様、相互協力の下 に研究活動や研修事業等を推進しています。

◆筑波大学附属久里浜特別支援学校における教育・研究活動

筑波大学附属久里浜特別支援学校では、幼児児童の指導に当たり、本人や保護者の期待などを踏まえた 上で、一人一人の実態に即した個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成して指導が行われています。 また、自閉症の障害の特性を考慮し、コミュニケーションを円滑に行うための写真・絵・文字カード等の 使用、混乱することなく行動や活動するための着替えのコーナー等の設置、個別学習や自由遊びの場所の 設定など、幼児児童にとって分かりやすい教育環境の整備にも力が注がれています。

現在、同校は、文部科学省の研究開発学校(平成19年度~21年度)の指定を受け、本研究所の研究職員 による協力のもと、研究開発課題である「自閉症児のための教育課程の研究開発」の研究が進められてい ます。

■Collaboration with Schools for Special Needs Education throughout the Country

NISE collaborates with schools for special needs education and primary/lower secondary schools throughout Japan for smooth promotion of practical researches. Those schools as research partnership cooperates in provision of information and data concerning research project, guidance, advice, collaborative research & development, developed teaching method, experimental practice and development of teaching materials.

Furthermore, since 2004, NISE has started to recruit organizations across the country as "Research Partners" which hope to conduct collaborative research with NISE. The purpose of this new partnership is to carry on significant research in accordance with educational needs in real classroom situation by sharing mutual consciousness of challenges, method of researches and research resources.

♦ List of Number of Cooperative Organizations, Collaborators and Research Partners, 2006

(Breakdown of Cooperative **Organizations**)

Schools 45 Universities and Institutions Prefectural and City Government-Affiliated 12 Organization

(Breakdown of Collaborators)

School Officials	47
University Officials and Researchers	42
Prefectural and City Government Officials	16

(Breakdown of Research Partners)

Collaboration

NISE

Schools	13
Universities and Institutions	0
Prefectural and City Government-Affiliated Organization	2

■Collaboration with Special Needs Education School for Children with Autism, University of Tsukuba

Outline of Special Needs Education School for Children with Autism University of Tsukuba.

The National Special Needs Education School for Children with Autism was originally established in September, 1973 to provide educational services for severely and/or multiply disabled children under close cooperation with National Institute of Special Needs Education. According to "The Structural Reform of Universities" by the minister of MEXT, the school restarted in April, 2004 as Kurihama School for Children with Autism, University of Tsukuba which has kindergarten and primary department to provide educational services for autistic children with intellectual disabilities.

As well as conducting education based on mainstream schools, the school cooperated with University of Tsukuba in promotion of research on education for children with disabilities and implementation of teaching practice by the

In July, 2004, University of Tsukuba concluded memorandum on educational research with NISE and has promoted research activities and training programs under the mutual cooperation.

Research and Educational Activities

The school provides individualized education, according to Individualized Support Program and Guidance Program in response to each child's need, based on their and their parent's requests.

Additionally, in consideration of the characteristics of autism, the school provides classes such as using photos pictures and word cards to facilitate communication. The school has also committed to improvement of educational environment which is comprehensible for children by setting up a dressing room to act and work without being confused and establishing rooms for individual studies and playing freely.

The school, as a designated for research and development by MEXT (from 2007-2009), now conducts a research titled "Research and Development on Curriculum for Children with Autism" receiving counsel and guidance from researchers in NISE. The research aims to organize curriculum for autistic children with intellectual disabilities in line with fixed class hours by selecting effective teaching contents through daily educational practice.



予算·施設 **Budget and Facilities**

所在地·連絡先 Address and Contact

NISE

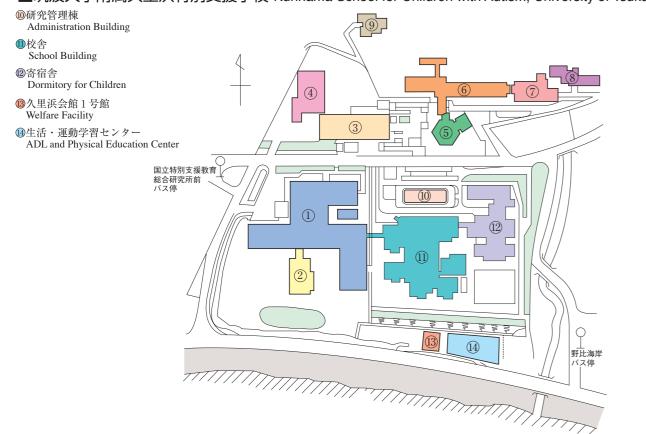
Budget (平成19年度)

予 算 (Budget	t of Annual Expenditure) 単位	: 千円 (in:1,000Yen)
運 営 費 (For Enterprise)	施 設 費 (For Facility)	総 額 (Total)
1,206,667	57,802	1,264,469

敷地・建物 Site and Building

	面 積 (m²)
敷地面積 Total Area	75,226.88m ²
建物面積 Area of Building	17,309.31m ²
① 研究管理棟 Administration Building	7,442.15m ²
② 特別支援教育情報センター棟 The Information Center of Special Needs Education Building	1,901.89m ²
③ 研修棟 Building for In-service Training	$1,344.51$ m 2
④ 体育館 Gymnasium	1,737.65m ²
5 食堂棟 Canteen	396.79m ²
⑥ 西研修員宿泊棟 West Dormitory for In-service Trainees	2,064.14m ²
⑦ 東研修員宿泊棟 East Dormitory for In-service Trainees	1,371.00m ²
⑧ 生活支援研究棟 Research Unit for Natural Living Environment	$231.46m^2$
⑨ 職員研修館 Welfare Facility	131.40m ²
その他 Others	688.32m ²

■筑波大学附属久里浜特別支援学校 Kurihama School for Children with Autism, University of Tsukuba



■所在地 Address

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

所 〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1 電 話

企画調整課 046 (839) 6808 Fax. (839) 6919 総務課 046 (839) 6803 Fax. (839) 6918 研修情報課 046 (839) 6827 Fax. (839) 6915

National Institute of Special Needs Education

Address 5-1-1 Nobi, Yokosuka-city, Kanagawa-prefecture, 239-8585 Japan

Telephone 81 – 46 – 839 – 6808, 6803, 6827 F a x 81-46-839-6919, 6918, 6915

Transportation |交通案内

研究所・学校

- 京浜急行電鉄 京急久里浜駅下車 バス2番のりばより国立久里浜病院行で約15分、国立特別支援教育総合研究所下車すぐ
 - バス2番のりばより野比海岸行(JR久里浜駅経由)で約20分、終点下車300m 又はタクシー約8分
- J R 横須賀線 久里浜駅下車 バス5番のりばより野比海岸行(京急久里浜駅始発)で約20分、終点下車300m 又はタクシー約10分

Transportation



■交通案内図





リエゾンオフィス (東京事務所) Liaison Office (Tokyo Branch)

所 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 キャンパスイノベーションセンター 404号室 Address #404, Campus Innovation Center, 3-3-6 Shibaura, Minato-ku, Tokyo,

108-0023 Japan 電 話 03(5440)9050 Fax兼用

Telephone & Fax 81 - 3 - 5440 - 9050

